



Simple POP

リファレンスガイド

目次

はじめに	1
この取扱説明書について	2
システムとソフトウェアの必要条件.....	3
起動モードについて	4
機能説明	5
Simple POP 機能説明.....	6
Simple POP 画面について.....	6
①メニューバー	6
②メニューアイコン	7
③ツールボックス	8
④表示タブ	15
⑤アクティブ設定	16
⑥カラー／線種	17
⑦レイアウトエリア	18
⑧スケール	18
Simple POP 起動時の画面について.....	18
メニュー説明	19
Simple POP メニュー機能.....	20
【ファイルメニュー】.....	20
【編集メニュー】.....	38
【表示メニュー】.....	40
【オブジェクトメニュー】	44
【ヘルプメニュー】	56
こんなときには	57
エラーメッセージの対処方法.....	58
警告メッセージの対処方法	59
RasterLink にエラーが発生した場合.....	60
全体トンボを付加して印刷したい	63
面付けして印刷したい.....	67
RasterLink で設定を調整したい	70
カットデータを作成したい	71
白文字をホワイトインクで印刷したい	73

▶ はじめに

この度は弊社製品をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。
Simple POP はプリント&カットの POP データを作成できる、デザインソフトです。

ご注意

- 本書の一部、または全部を無断で記載したり、複写することは固くお断りいたします。
- 本書の内容に関しまして、将来予告無しに変更することがあります。
- 本ソフトウェアの改良変更等により、仕様面において本書の記載事項とが一部異なる場合があります。ご了承ください。
- 本ソフトウェアを他のディスクにコピーしたり（バックアップを目的とする場合を除く）、実行する以外の目的でメモリにロードすることを固く禁じます。
- 株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。一例として、本製品を使用してのメディア（ワーク）等の損失、メディアを使用して作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及び各国での登録商標であり、
その他、記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

▶ この取扱説明書について

本書は Simple POP の使い方とその機能について説明しています。

本文中の表記について

- メニュー・アイコンに関する項目は [ファイル] メニューのように [] で表記します。
- ダイアログに表示するボタンは【OK】のように【 】で表記します。
- 各ダイアログボックスは『用紙設定』ダイアログボックスのように『 』で表記します。
- その他の画面上の表記は「線幅」のように「 」で表記します。
- キーボードの表記は **Shift** キーというように で表記します。

RasterLink について

- バージョンを区別する必要がない場合は、RasterLink6Plus と RasterLink7 をまとめて「RasterLink」と表記します。
- 画面イメージは、主に RasterLink6Plus のものを使用しています。

特記事項について

ヒント!

Simple POP を使用する際の便利な使い方や、ヒントについて説明しています。

重要!

Simple POP をお使いになる際に注意していただくこと、または必ず実行していただくことについて説明しています。

⇒

関連した内容の参照ページを示しています。

システムとソフトウェアの必要条件

Simple POP をインストールして使用するには、次の条件が必要です。

OS	Windows 10® (32/64bit) Windows 11® (64bit)
CPU	Intel® Core™ i3-4130K(3.4GHz) 以上
チップセット	Intel® 純正チップセット
メモリ	2GB 以上
HDD	160GB 以上
プリント・カット複合プリンタ	CJV330、UCJV300/150、CJV300/150、CJV300 Plus シリーズ、UCJV330
カッティングプロッタ	CG-AR
RIP ソフトウェア	RasterLink6Plus Ver.2.6 以降 RasterLink7 Ver. 3.2.0 以降

対応機種と RIP ソフトウェアの組み合わせは以下の通りです。

機種	RasterLink6Plus	RasterLink7
CJV330	×	○
CJV300 Plus	○	○
UCJV300	○	○
UCJV150	○	×
CJV300	○	○
CJV150	○	○
UCJV330	×	○

▶ 起動モードについて

Simple POP は2つの起動モードがあります。

1. スタンダードモード・・・テンプレートを編集して、印刷したい場合に使用します。
2. アドバンスモード・・・テンプレートを新規作成したい場合に使用します。

起動モードはメニューの[ファイル]・[環境設定]・[基本設定]で設定できます。

※ 起動モードは SimplePOP を再起動後に切り替えます。



ヒント!

起動モードの切り替え (⇒36 ページ)

初期状態はスタンダードモードです。以下にそれぞれのモードで使用できる機能を示します。

機能名	項目名	モード	
		スタンダード	アドバンス
作成	新規作成	-	○
	開く	○	○
	テンプレートから作成	○	○
保存	保存	○	○
	テンプレートとして保存	○	○
	テンプレートの一括インポート	○	○
入力	イメージ配置	○	○
	シンボル読込、登録	○	○
	TWAIN 入力・選択	-	○
出力	プリント	-	○
	カット	○	○
	RasterLink 出力	○	○
ツール	選択	○	○
	文字・四角形・円・多角形作図	○	○
	矢印作図・ペン・鉛筆	-	○
	トレース	-	○
	ズーム・ハンドスクロール	○	○
オブジェクトメニュー	プリント/カットデータに変換	○	○
	一般図形に変換	-	○
	複合図形に変換	-	○
	カス取り線作成	-	○
	輪郭作成	-	○
	切り抜き	○	○

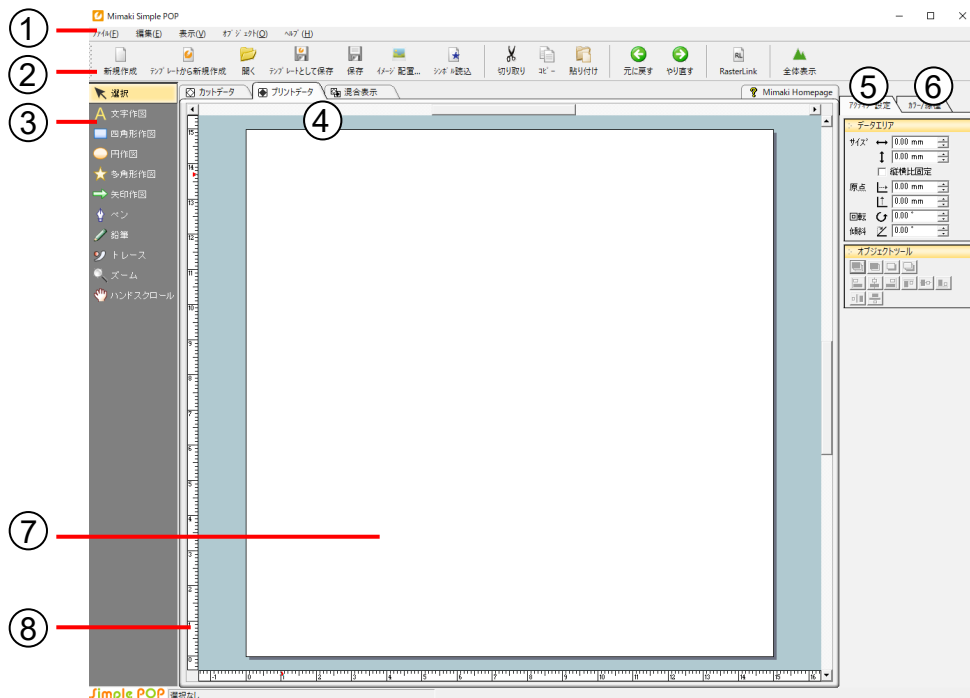


機能説明

Simple POP 機能説明

Simple POP 画面について

Simple POP の画面構成について説明します。



- ①メニューバー
- ②メニューアイコン
- ③ツールボックス
- ④表示タブ
- ⑤アクティブ設定
- ⑥カラー/線種
- ⑦レイアウトエリア
- ⑧スケール

①メニューバー

[ファイル][編集][表示][オブジェクト][ヘルプ]の5グループに分かれています。それぞれのメニューをクリックすると、Simple POP の基本的な機能がメニュー形式で表示されます。

(⇒19 ページから)

②メニューアイコン

メニュー機能の中から特に頻繁に使用する機能をメニューアイコンに格納してあります。アイコンをクリックするだけで実行することができますので効率的な作業ができます。



新規作成: 新規図面を作成します。
(⇒20 ページ)



テンプレートから新規作成: Simple POP の付属テンプレートやユーザーが登録したテンプレートをテンプレート選択画面から選択して新規図面を作成します。
(⇒21 ページ)



開く: 保存されているファイルを開きます。ここで読み込み可能なファイルの種類は MPX 形式のみです。
(⇒21 ページ)



テンプレートとして保存: 編集中のファイルをテンプレートとして登録・保存します。登録時にテンプレートのカテゴリとファイル名を指定します。
(⇒23 ページ)



保存: 既存のファイルを上書き保存します。別ファイルとして保存する場合は [ファイル] - [名前を付けて保存] をクリックして下さい。
(⇒22 ページ)



イメージ配置: 画像など、外部データを読み込み、配置します。
(⇒24 ページ)









シンボル読込: Simple POP に付属のシンボルを読み込み、配置します。
(⇒24 ページ)



切り取り: 選択したオブジェクトを図面から切り取り、クリップボードにコピーします。
(⇒38 ページ)



コピー: 選択したオブジェクトをクリップボードにコピーします。
(⇒39 ページ)

- 
貼り付け: クリップボードにコピーしてあるデータを、図面上に貼りつけます。
(⇒39 ページ)
- 
元に戻す: 誤った操作を実行した直後に使用します。
(⇒38 ページ)
- 
やり直す: [編集] - [元に戻す] で取り消した作業を元に戻し、[元に戻す] コマンドを実行する前の作業状態にします。
(⇒38 ページ)
- 
RasterLink: RasterLink へ印刷データとカットデータを出力します。(⇒30 ページ)
- 
カット: カuttingプロッタにデータを送り、カットします。
(⇒27 ページ)
- 
全体表示: 図面上にあるデータ全体を表示します。
(⇒40 ページ)

③ツールボックス

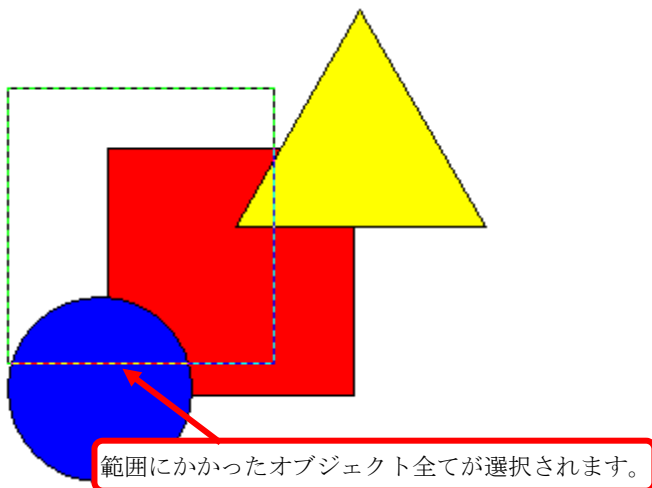
ツールボックスには、オブジェクト編集又は作成機能を中心にボタンが配置されています。

 選択

文字や図形などのオブジェクトをクリック又はドラッグにて選択します。

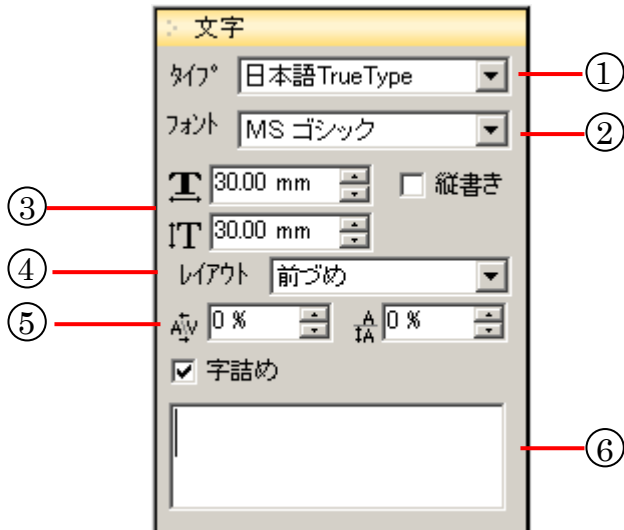
《複数オブジェクトを選択する2通りの方法》

1. **Shift** キーを押しながら、任意のオブジェクトをクリックし選択してください。
2. 選択する複数のオブジェクト全体を囲うようにしてドラッグして下さい。



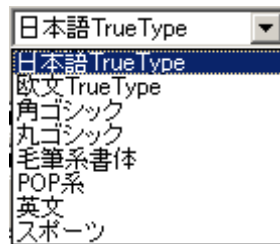
A 文字作図

図面上でクリックします。「アクティブ設定」タブに「文字パネル」が表示されます。



① タイプ

フォントのタイプを選択します。②のフォントでは、ここで選択されたタイプに属するフォントが表示します。



② フォント

①で選択したタイプに属するフォントが表示されます。

③ サイズ

1文字の縦横のサイズを指定します。

④ レイアウト

複数行に渡った文字列のレイアウトを「前づめ」「中づめ」「後づめ」「均等」より選択します。

⑤ 文字間・行間

文字又は行の間の余白を%にて指定します。

⑥ テキストフィールド

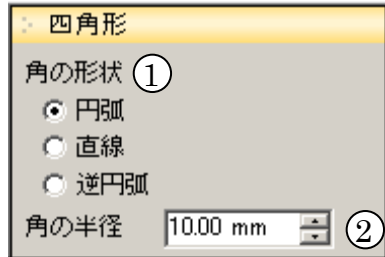
作成する文字を入力します。

重要!

テンプレートの中には、編集ができない文字も含まれます。それらをクリックしても「文字パネル」は表示されません。

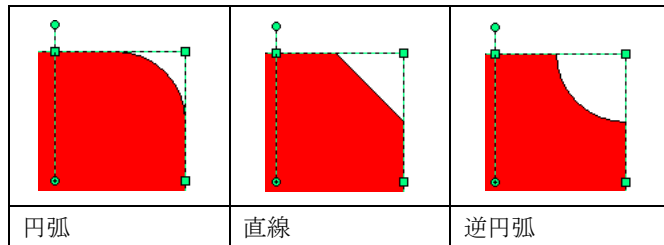
■ 四角形作図

画面上でドラッグしながら四角形を作成します。「アクティブ設定」タブに「四角形パネル」が表示されます。



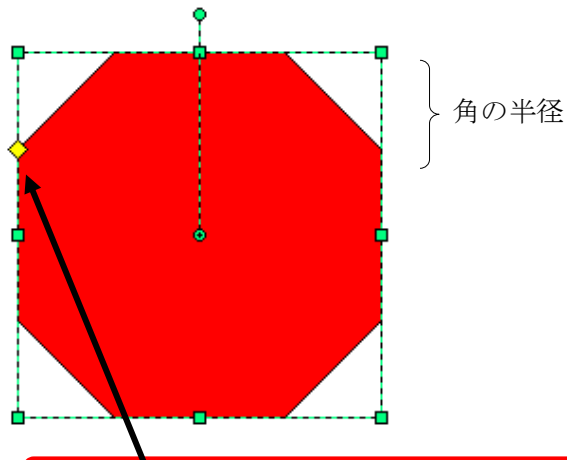
① 角の形状

「円弧」「直線」「逆円弧」の3つの形状から選択できます。



② 角の半径

半径を mm 単位にて設定します。



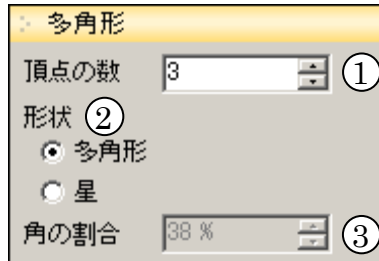
黄色のマークをドラッグすると半径が変更されます。

 円作図

画面上でドラッグしながら円を作成します。**Shift** キーを押しながらドラッグすると真円を描くことができます。

 多角形作図

画面上でドラッグしながら多角形を作成します。「アクティブ設定」タブに「多角形パネル」が表示されます。

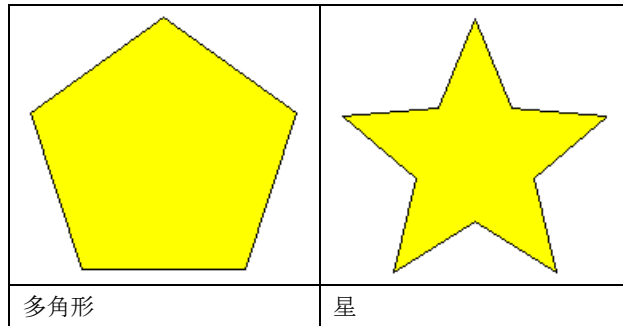


① 頂点の数

多角形の角の数を入力します。

② 形状

多角形又は星のどちらかを選択します。



③ 角の割合

星の形状を選択した場合のみ有効なパラメータです。

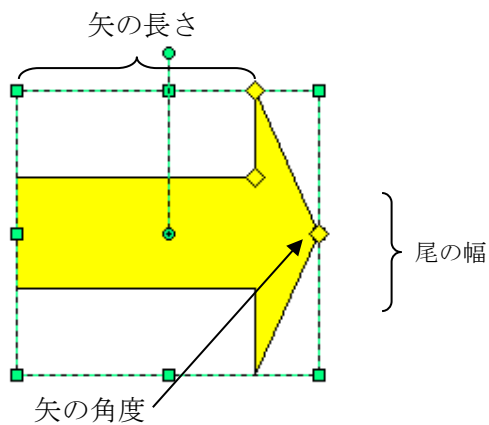
数値を小さくすると星の頂点が鋭角に、数値を大きくすると星の頂点が鈍角に変化します。

→ 矢印作図

画面上でドラッグしながら矢印を作成します。「アクティブ設定」タブに「矢印パネル」が表示されます。

矢印	
長さ	74.62 mm ①
矢の角度	132° ②
尾の幅	34.67 mm ③

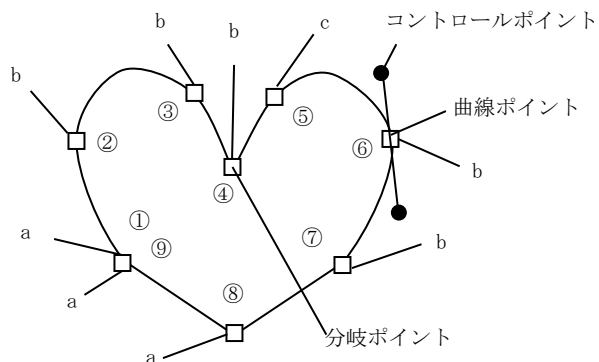
- ① **長さ**
矢の長さを入力又は選択します。
- ② **矢の角度**
矢の角度を入力または選択します。
- ③ **尾の幅**
矢の角度を入力または選択します。





オブジェクトを選択していない状態からは「一般図形の作成」になり、一般図形を選択している状態からは「一般図形の編集」になります。

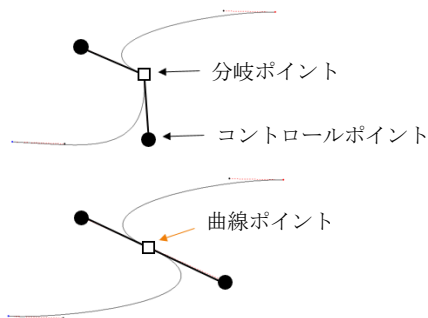
編集を行う場合はオブジェクトを一般図形に変換する必要があります。



《オブジェクトの作成》

(上図において①から⑨の順にクリックした時の例です)

- a クリック 直線ポイントを追加します。
- b Ctrl + クリック 曲線ポイントを追加します。
- c Shift + クリック 一つ前の点を分岐ポイントにし、ポイントを追加します。



《オブジェクトの編集》

【1】ポイントをドラッグするとポイントが移動します。

【2】ポイントを右クリックするとメニューが表示されます。

- 分岐ポイント 線分同士が角度を付けてつながれるポイントに変更します。
- 曲線ポイント 線分同士をなめらかにつなげるポイントに変更します。
- ポイント削除 ポイントを削除します。

分割	線を切り離します。
結合	線の始終点をつなげます。
図形削除	図形を削除します。

【3】線分をドラッグすると線分が移動します。

【4】線分を右クリックするとメニューが表示されます。

ポイント追加	ポイントを追加します。
直線化	線分を直線に変更します。
曲線化	線分を曲線に変更します。
図形削除	図形を削除します。

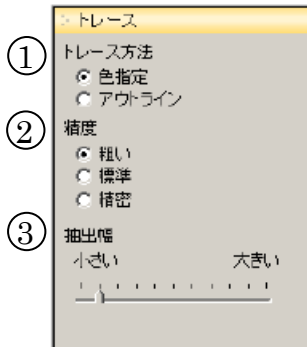
鉛筆

フリーハンドで、マウスでドラッグした通りに、自由にラインを描きま
す。ボタンを離れた時点で終了します。

ヒント!

鉛筆ツールでラインを描く場合、曲線部分がギザギザに描かれる場合があります。
滑らかな曲線を作成したい場合、鉛筆ツールで作成したラインを下書きとし、ペン
ツールをご使用ください。

トレース



画像オブジェクトをトレースしてベクトルデータ (アウトライン) に変
換します。

① トレース方法

- ・色指定
選択した色を抽出して、トレースを行います。
- ・アウトライン
選択した色を除いて、トレースを行います。

② 精度

トレースする精度を3段階から選択します。精密にするとポイ
ントが増えて細かくトレースされますが、データが大きくなる
ことがあります。

③ 抽出幅

抽出する色の幅を設定します。抽出幅を小さくすると、選択し
た色と同じ色を対象にしてトレースを行います。

ズーム

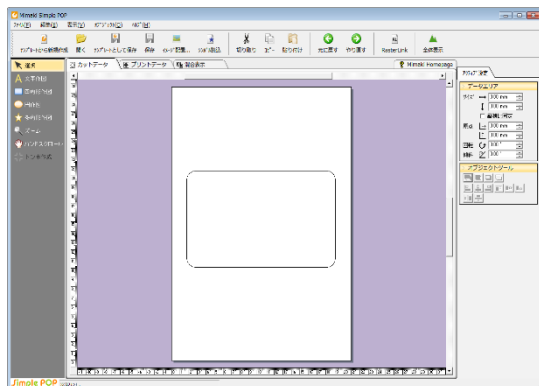
クリックした点を中心に拡大表示します。

また、ドラッグして範囲指定をすると、その指定した範囲を拡大表示し
ます。**Alt** キーを押しながら実行すると縮小表示します。

ハンドスクロール

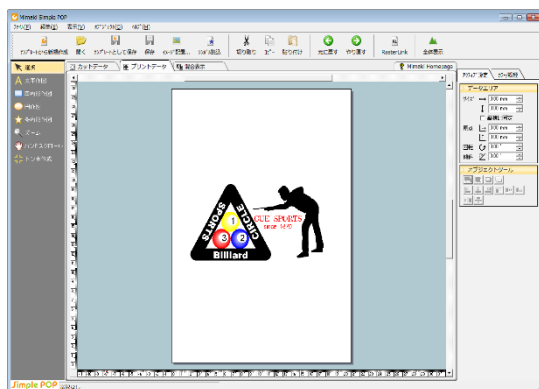
ドラッグすることにより、画面を上下左右自由にスクロールします。

④表示タブ



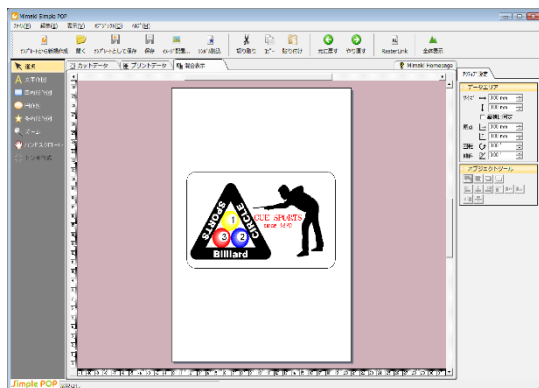
カットデータ:

カット対象データのみ表示します。
カットデータでは、「カラー／線種」
パネルが表示されません。



プリントデータ:

プリント対象データのみ表示しま
す。



混合表示:

カットデータ及びプリントデー
タが混合表示されます。

⑤ アクティブ設定

通常は、「データエリア」と「オブジェクトツール」パネルのみ表示されています。選択されたオブジェクトに応じて、必要なパネルが表示されます。



① データエリア

選択されたオブジェクトの「サイズ」「原点」が表示されます。

「回転」「傾斜」に直接数値を入力して編集することができます。

② オブジェクトツール

[アレンジ] および [整列] と同様の機能です。

(⇒44 ページ)

(⇒45 ページ)

⑥カラー／線種

カラー／線種パネルは、編集モードが「プリントデータ」を選択している場合のみ表示され、プリント対象データのみ設定することができます。

アクティブ設定 カラー／線種

パレット

①パレット
塗り込み、線の色を設定します。任意の色をクリックすると選択されている図形の塗り込み又は線の色が設定されます。

②カレントカラー
塗り込み又は線の切り替えを行います。また、パレットや RGB 設定で指定した色が反映されます。

③RGB 設定
数値による RGB カラー値を設定します。

R 0 /255
G 0 /255
B 0 /255

④グラデーション
グラデーションの種類と色を設定します。

角度: 0 度

ペン設定

⑤ペン設定
線について、線幅、ジョイント、キャップを設定します。

線幅 0.00 mm
ジョイント
キャップ

⑦レイアウトエリア

用紙設定で設定したエリアが白く表示されます。

⑧スケール

スケールが表示されます。

マウスを動かすと、X 軸、Y 軸ともに赤のマークが移動し、位置を示します。

Simple POP 起動時の画面について

Simple POP を起動すると『POP の作成方法を選択する』ダイアログが表示されます。

各ボタンをクリックした場合の動作についてはメニューアイコンをクリックした時と同じ動作を行います。



**テンプレートから
新規作成**

Simple POP の付属テンプレートやユーザーが登録したテンプレートをテンプレート選択画面から選択して新規画面を作成します。

(⇒20 ページ)



開く

保存されているファイルを開きます。ここで読み込み可能なファイルの種類は MPX 形式のみです。

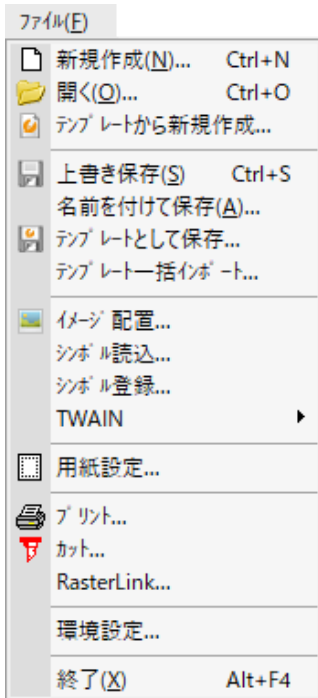
(⇒21 ページ)



メニュー説明

Simple POP メニュー機能

[ファイルメニュー]



新規作成  **Ctrl + N**

このコマンドを選択すると『用紙』ダイアログボックスが表示されます。それぞれ詳細を設定し、【OK】ボタンをクリックすると新規の図面が作成されます。

《ユーザー定義サイズ設定方法》

タイトルとサイズを入力し【登録】ボタンをクリックします。

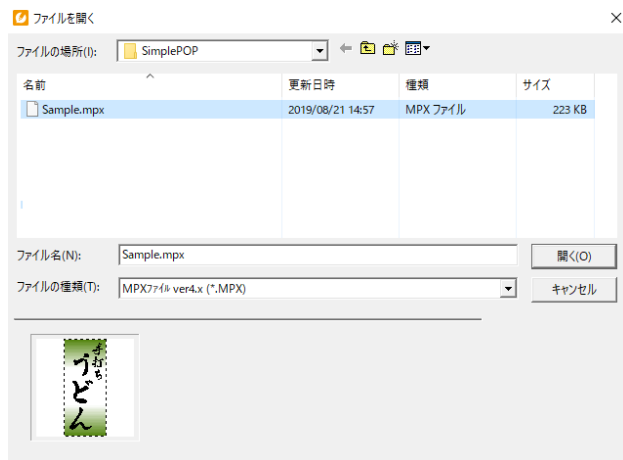


ヒント!

目安として用紙長を 2,000mm 以上の長尺に設定してカット出力すると、シートの蛇行によりカットがずれてしまうことがあります。この場合、当社分割カット対応のカッティングプロッタ本体で、[ブンカツカット]を設定することで改善することがあります。詳しくは当社カッティングプロッタの取扱説明書をご確認ください。

開く Ctrl + O

ファイルを選択して【開く】ボタンをクリックすると、保存していた図面が読み込まれます。
読み込み可能なファイルはMPX形式のみです。



テンプレートから新規作成

このコマンドを選択すると『テンプレート選択』ダイアログボックスが表示されます。
管理フォルダやテンプレートカテゴリを切り替えてテンプレートを選択し、【OK】ボタンをクリックすると新規の図面が作成されます。



- ① 「管理フォルダ」 ソフト付属/ユーザー登録のテンプレート種別を選択します。
- ② 「カテゴリ」 選択されたカテゴリに所属するテンプレートを表示します。
- ③ 「検索キーワード」 テンプレートを入力した文字列で絞り込む事が出来ます。
- ④ 「選択テンプレート」 テンプレートの周囲に赤枠が表示されます。

ヒント!

データ作成後、新しいテンプレートを選択したい場合はメニューアイコンの
[テンプレートから新規作成]を選択してください。

上書き保存 **Ctrl + S**

編集中のファイルを上書き保存します。

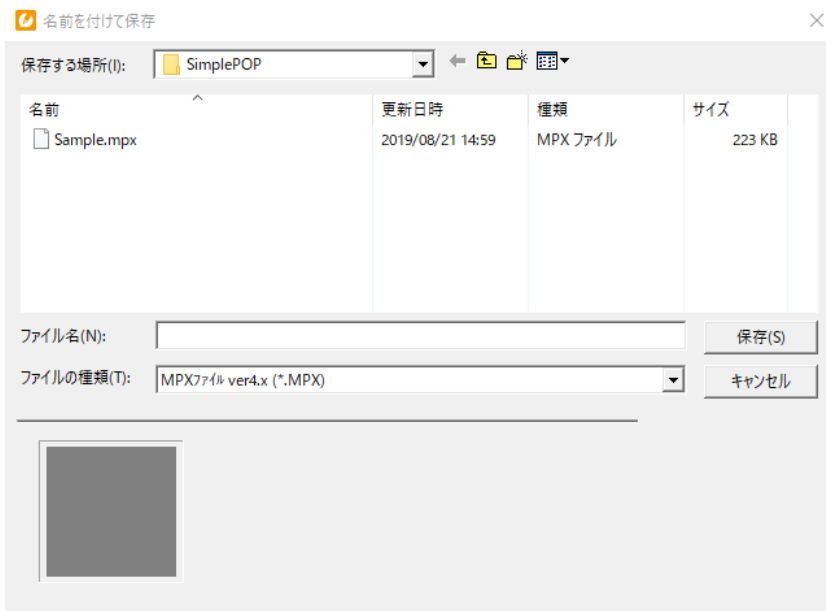
重要!

保存では、上書き確認の警告が出ません。保存を実行すると、保存する前のデータはなくなり、新たなファイルとして保存されます。

名前をつけて保存

新規に名前を付けて保存します。

ファイル名を入力し【保存】ボタンをクリックします。

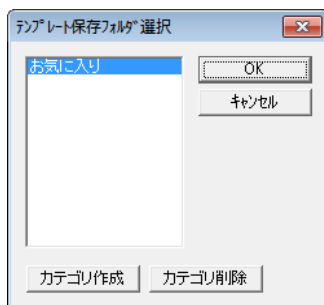


重要!

保存可能なファイルの種類は MPX 形式のみです。

テンプレートとして保存

よく使用するデザインなどは、テンプレートとして保存することができます。
保存するフォルダを選択し、【OK】ボタンをクリックすると、テンプレート名の
入力画面が表示されますので適切な名前を入力後、【OK】ボタンをクリックします。

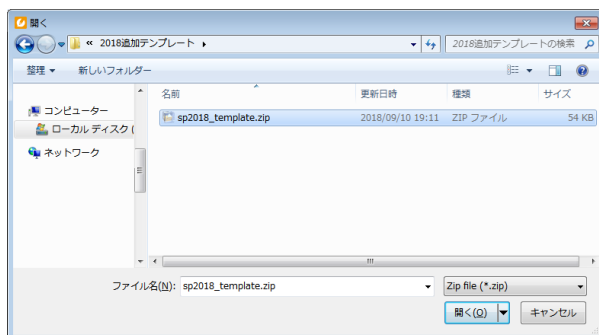


テンプレート一括インポート

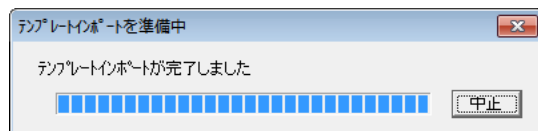
ミマキエンジニアリングから提供された追加のテンプレートをインポートすることができます。
下記の URL からテンプレートをダウンロードすることができます。

URL : <https://japan.mimaki.com/product/software/cutting/simple-pop/download.html>

ダウンロードした zip ファイルを選択し、【開く】ボタンをクリックすると、テンプレートが追加されます。



インポート処理が開始されると下記の処理経過ダイアログが表示され、
処理が完了すると自動的にダイアログが消去されます。



重要!

追加したテンプレートは以下のフォルダに保存されます。
テンプレート保存フォルダ：インストールフォルダ\data
上記フォルダはアンインストール後に手動で削除してください。

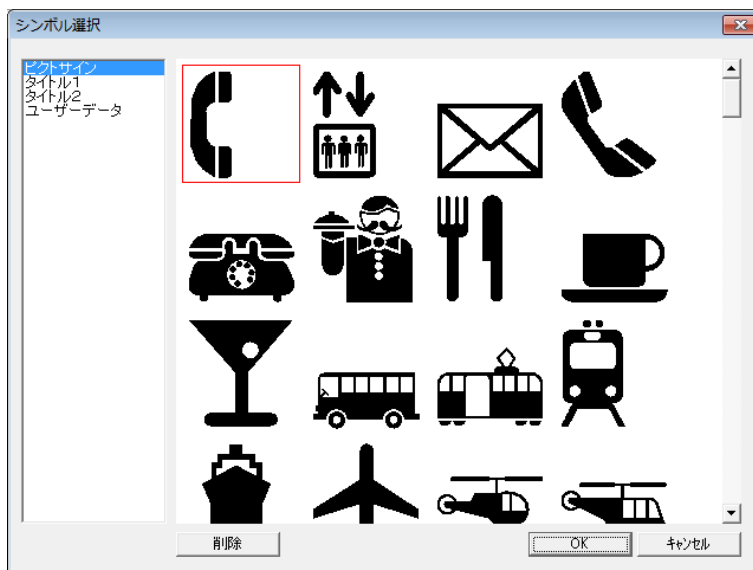
イメージ配置

画像など、外部データを読み込みます。
配置可能なファイルの種類は BMP・JPG です。

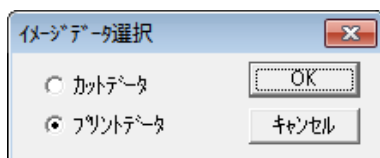
シンボル読込

シンボルデータを読み込みます。

- 1 左のカテゴリ一覧からカテゴリを選択します。



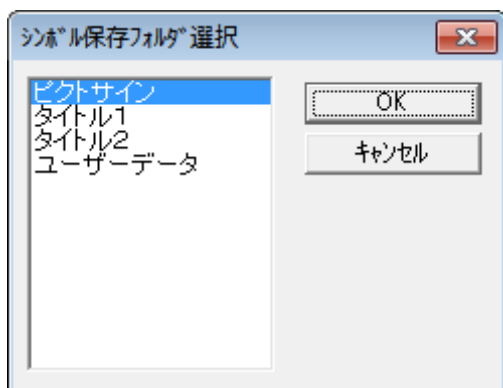
- 2 右に表示されたシンボルから読み込むシンボルを選択し、【OK】ボタンをクリックします。
- 3 使用するデータタイプを選択して【OK】ボタンをクリックします。



シンボル登録

作成したデータをシンボルとして登録します。ここでシンボル登録されたデータは、今後シンボル読込にて読み込むことができます。

1 シンボルを登録するフォルダを選択します。



重要!

追加したシンボルは以下のフォルダに保存されます。
シンボル保存フォルダ：インストールフォルダ\data
上記フォルダはアンインストール後に手動で削除してください。

TWAIN - TWAIN 入力

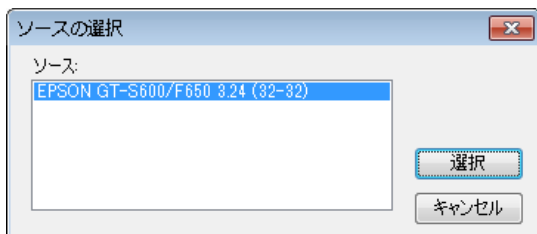
TWAIN 入力コマンドを実行すると、スキャナ等 TWAIN 対応機器の画像取り込みが開始されます。取り込み終了後、データが図面に貼り付きます。

重要!

スキャナ等取り込みの際には、各メーカーのマニュアルをご覧ください。

TWAIN - TWAIN 選択

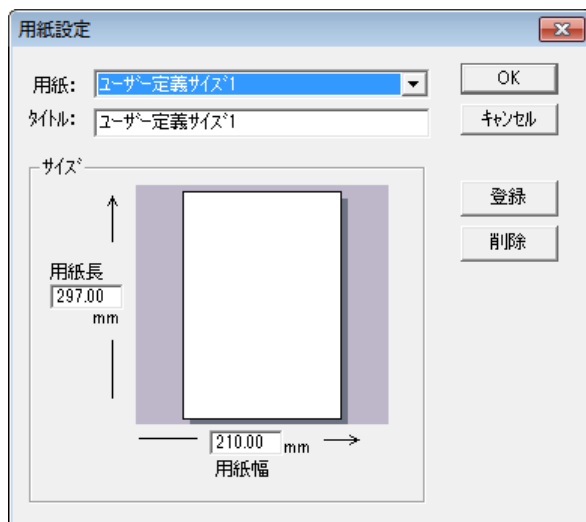
TWAIN 選択コマンドを実行すると、選択可能な TWAIN 機器が表示されます。TWAIN 機器を選択後、【選択】ボタンをクリックします。



用紙設定

用紙設定では、下記の内容を実行します。

- 用紙の選択
- ユーザー定義サイズの新規登録
- 登録されているユーザー定義サイズの変更
- 登録されているユーザー定義サイズの削除



プリント

通常使うプリンタに設定されているプリンタドライバを利用して印刷します。お使いのプリンタの『印刷』ダイアログボックスが表示されます。

重要!

画像やメタファイルオブジェクトを含む図面をプリントするとオブジェクトの解像度により画質が悪くなる場合があります。

カット

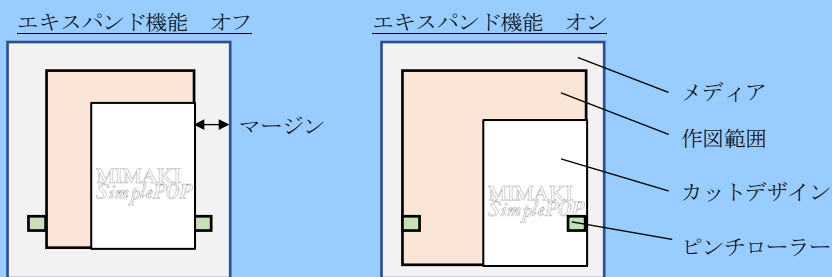
[カットデータ]タブで設定したカット情報に従って、データをカットします。

重要!

Mimaki CG-AR プロッタードライバーをあらかじめインストールしておく必要があります。詳しくは「CG-AR 取扱説明書」をご覧ください。

重要!

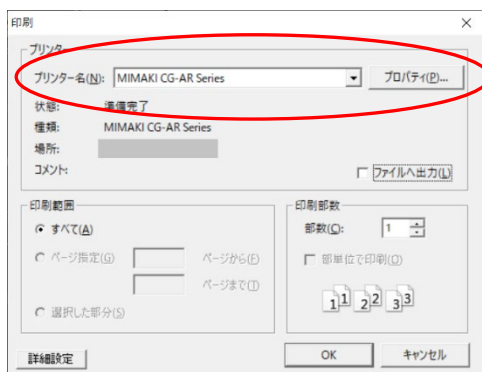
プロッタ機種によって、用紙の上下左右に一定量のマージンが挿入されます（マージンの量は機種によって異なります）。
プロッタ本体の設定「エキスパンド機能」をオンにすることで、マージンを小さく設定できます。詳しくは機種の「取扱説明書」をご確認ください。



1 [カット]アイコン をクリックします。

- 『印刷』ダイアログが表示されます。

2 お使いのカuttingプロッタを選択し、【プロパティ】ボタンをクリックします。



- 『プリンタープロパティ』ダイアログが表示されます。

3 「用紙の回転角度」を「180」に設定します。



ヒント!

この手順は、既存製品「SimpleCut」と出力方向を一致させるための設定のため、省略が可能です。

4 「用紙」を Simple POP の用紙設定と同じサイズに設定します。

(⇒26 ページ)

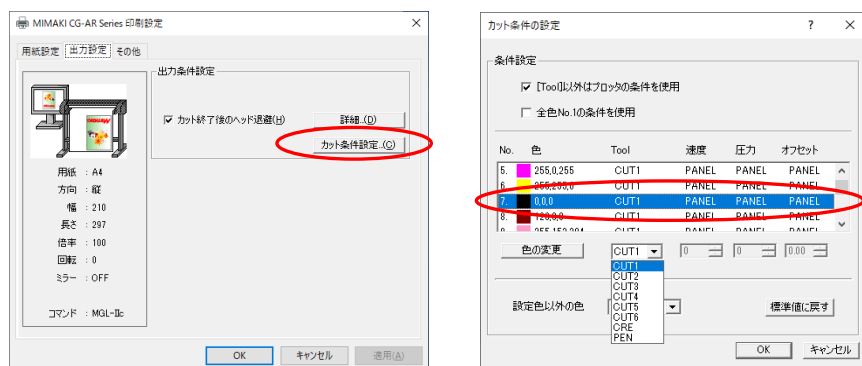


ヒント!

用紙サイズ以外の設定をする場合は、[用紙設定]タブ、[出力設定]タブ、[その他]タブ、にある設定を適宜変更してください。

5 カット条件を設定します。

- プロッタードライバーでは線の色ごとに出力条件を設定します。
SimplePOP からカット出力する線の色は黒(0,0,0)です。
[出力設定]タブ - [カット条件設定]から[カット条件の設定]画面の「No.7 黒 0,0,0」のカット条件を設定してください。



6 『プリンタープロパティ』ダイアログを閉じ、【OK】ボタンをクリックします。

- カットが開始されます。

RasterLink


編集中のデータを RasterLink に送信してプリントやプリント&カットをおこないます。

重要!

データを送信する前に、RasterLink で下記のセットアップが必要になります。

- ・お気に入り設定
- ・自動実行オプション設定

詳しくは SimplePOP のセットアップガイドをご覧ください。

1  アイコンをクリックすると『フォルダ—参照』ダイアログが表示されます。

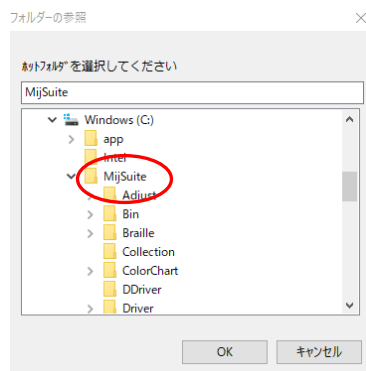
2 RaserLink のインストールフォルダを選択します。

ヒント!

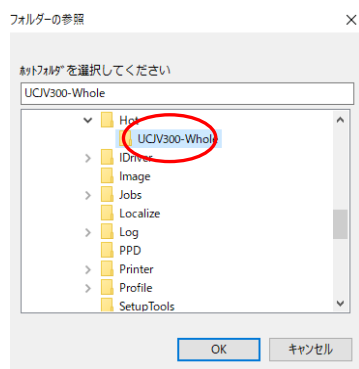
RasterLink のバージョンごとのインストールフォルダは以下になります。

RasterLink6Plus : C:\¥MijSuite¥

RasterLink7 : C:\¥MijCtrl¥






3 RaserLink のホットフォルダを選択し、【OK】をクリックします。



ヒント!

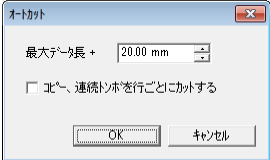
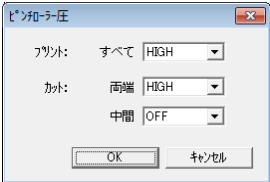
・ RasterLink ではプリンタ毎にホットフォルダが作成されています。
ホットフォルダは印刷条件を変更して、複数作成することが出来ます。
詳細なご利用方法については RasterLink 付属の説明書をご覧ください。

4 [設定]タブを選択して各項目を確認します。

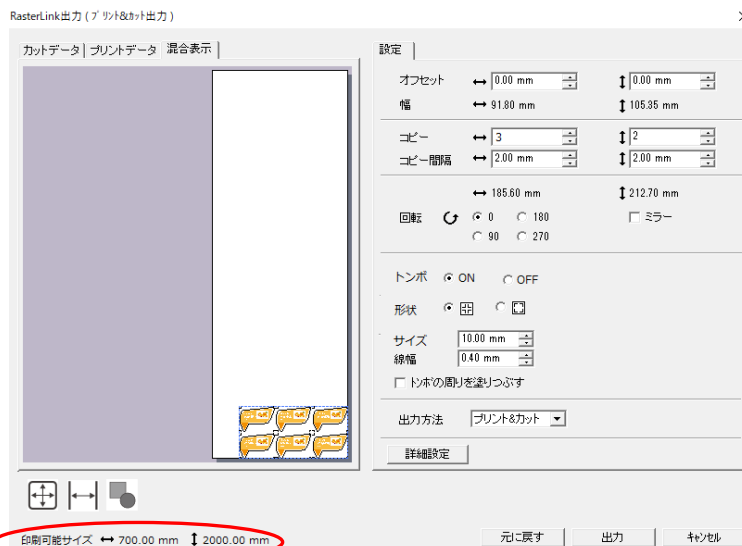
①オフセット	データ全体を移動して、印刷位置・カット位置を変更します。(マイナス値は入力できません)		
②幅	データオブジェクトのサイズを表示します。		
③コピー	縦横方向にコピーする数を指定します。		
④コピー間隔	コピーの際、縦横間隔を指定します。		
⑤印刷サイズ表示	データ全体のサイズを表示します。		
⑥回転	データ全体を回転します。		
⑦ミラー	データオブジェクトを鏡で映したように反転します。		
⑧出力方法	RasterLink への出力方法を選択します。		
⑨トンボ	データにトンボをつけます。カット時の位置検出を行うために用います。		
⑩詳細設定	カッティング設定画面を表示します。		
⑪印刷可能サイズ	シートサイズを設定します。シートは印刷イメージタブに表示され、データのレイアウトを確認出来ます。		
⑫ズームサイズ表示		シート全体表示	シート全体を表示します。
		シート幅表示	シート幅いっぱいに表示します。
		オブジェクト全体表示	オブジェクト全体を表示します。
⑬出力ボタン	RasterLink へデータを送ります。		

5 【詳細設定】ボタンをクリックして各項目を確認します。



①シートフィード	カット前にシートをフィードして、データを最後までカットできるか確認します。
②オートカット	<p>カット終了後、メディアを裁断します。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・最後端に付く余白を設定します。 ・1行のデータカットが終了するごとに裁断します。
③ピンチローラー圧	<p>ピンチローラーの圧力を設定します。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・プリント時の圧力を設定します。 ・カット時の圧力を設定します。カット時では、メディアの両端を押さえるピンチローラーとメディアの中側を押さえるピンチローラーと別の設定ができます。
④条件指定	オブジェクトへのカット条件の指定を選択します。
⑤プリセット	あらかじめ設定されているカット条件を選択します。
⑥ツール	カットに使用するツールを選択します。
⑦カット設定	スピード/圧力/オフセットを設定します。
⑧プリセット設定	カット条件プリセットの編集をおこないます。

6 印刷可能サイズを確認します。



重要！

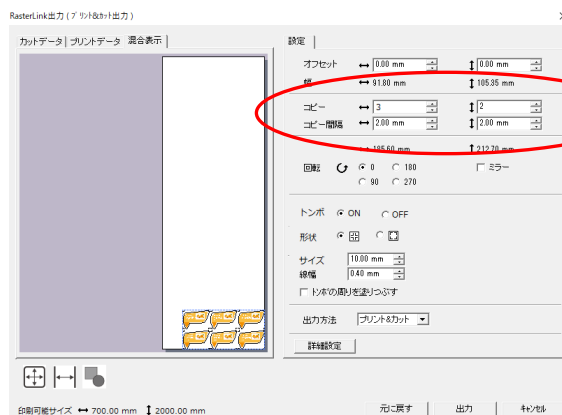
ロールメディアの場合、印刷可能サイズ長は環境設定画面で設定したシート最大プレビューサイズの値が設定されます。

印刷可能サイズは RasterLink の自動実行が開始されていて、かつ自動実行オプション[定期的にメディア情報を取得する]が有効の場合に読み込まれます。

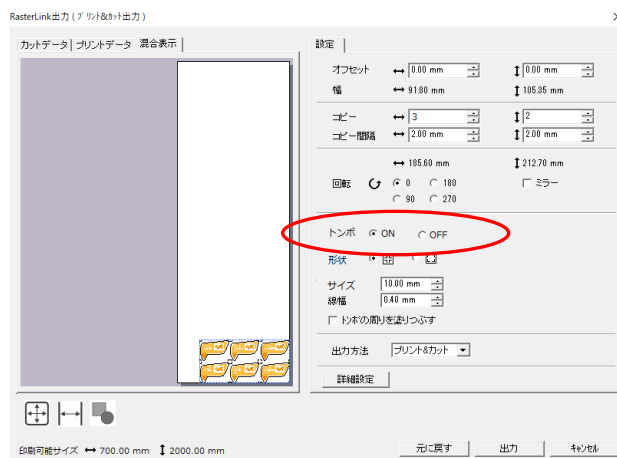
設定手順は Simple POP の「セットアップガイド」を参照してください。

7 コピー枚数、コピー間隔を設定します。

- 「コピー」設定の横、縦方向それぞれにコピーする回数を入力してください。
- また、「コピー間隔」設定で、コピー間の余白を入力してください。



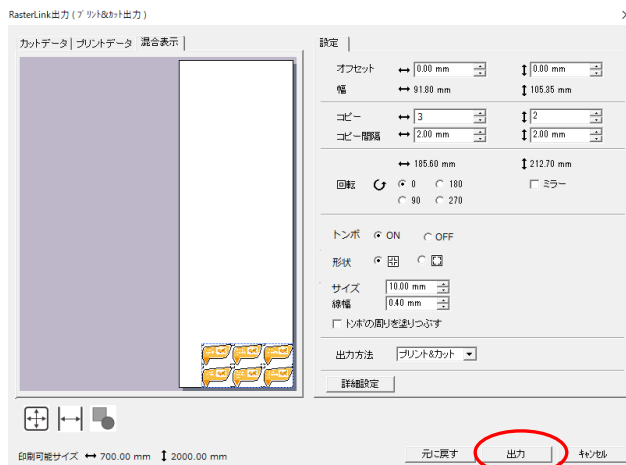
8 トンボを設定します。



重要！

RasterLink のお気に入り設定で全体トンボを設定している場合、Simple POP のトンボ設定はグレーアウトします。

9 【出力】ボタンをクリックします。



重要！

プリントデータが存在しないデータで、出力方法を「プリント」に設定して出力した場合、データは出力されません。

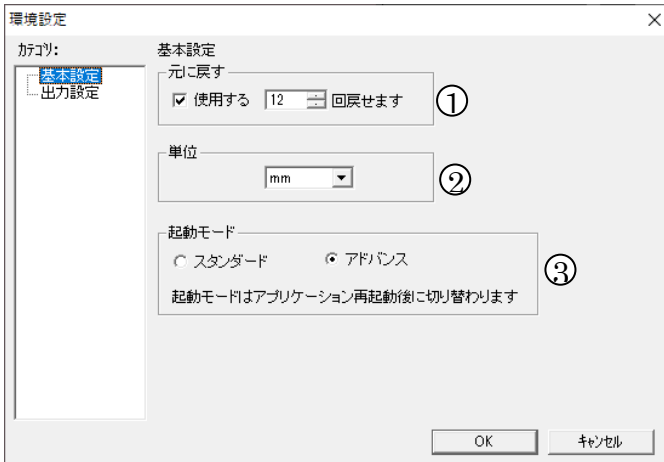
重要！

プリントデータとカットデータが重なっている部分は、カットされます。プリントデータをカットしたくない場合は、【キャンセル】ボタンをクリックして、重ならないように再配置してください。

環境設定

Simple POP の動作環境を設定します。「基本設定」「出力設定」に分かれていますので、左のメニューよりどちらか選択してください。

●基本設定



①元に戻す

「元に戻す」の有効設定および、元に戻す場合の回数を設定します。チェック ON の場合、「元に戻す」コマンドが有効になります。

重要！

元に戻す回数を多くすると相当のメモリーが使用され、ソフトウェアの動作が遅くなる可能性があります。

②単位

表示単位を mm または inch に切り替えます。初期値は mm です。

重要！

一部の項目は inch に切り替えることができません。

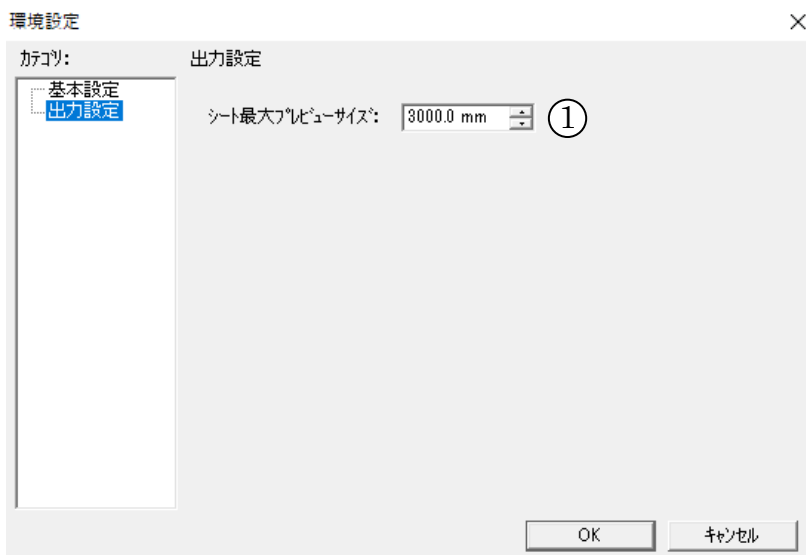
③起動モード

起動モードを切り替えたいときに使用します。初期状態はスタンダードモードです。

重要！

起動モードは Simple POP 再起動後に切り替わります。

●出力設定



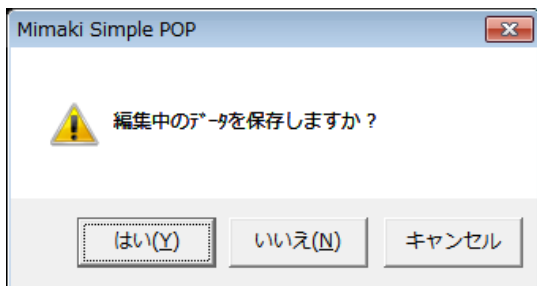
①シート最大プレビューサイズ

『RasterLink 出力』ダイアログで表示されるプレビューの最大サイズを設定します。







終了 **Alt + F4**

このコマンドを選択すると Simple POP が終了します。

編集中の図面がある場合には、保存確認のウインドウが開きます。保存して終了する場合は【はい】、保存しないで終了する場合は【いいえ】、終了を取り止める場合は【キャンセル】をクリックします。



[編集メニュー]

編集(E)	
 元に戻す	Ctrl+Z
 やり直す	Ctrl+Y
 切り取り(T)	Ctrl+X
 コピー(C)	Ctrl+C
 貼り付け(P)	Ctrl+V
 削除(D)	Del
すべて選択(L) Ctrl+A	

元に戻す +

誤った操作を実行した直後に使用します。

又、[元に戻す] コマンドを実行後、それを取り消す場合には [編集] - [やり直す] を実行します。

重要!

元に戻すコマンドは、[ファイル] - [環境設定] にて設定した回数以上、さかのぼって元に戻すことはできません。

やり直す +

[編集] - [元に戻す] で取り消した作業を元に戻し、[元に戻す] コマンドを実行する前の作業状態にします。

重要!

このコマンドは、[編集] - [元に戻す] を実行後有効となります。元に戻すコマンドを使用していない場合は、グレーで表示され選択できません。

切り取り +

選択したオブジェクトを図面から切り取り、クリップボードにコピーします。ここで切り取ったデータは [編集] - [貼り付け] で貼り付けることができます。

オブジェクトを選択してから、切り取りコマンドを実行して下さい。

コピー **Ctrl + C**

選択したオブジェクトをクリップボードにコピーします。ここでコピーしたデータは [編集] - [貼り付け] で貼り付けることができます。

オブジェクトを選択してから、コピーコマンドを実行して下さい。

貼り付け **Ctrl + V**

他のアプリケーション、または Simple POP で作成したデータで、あらかじめクリップボードにコピーしてあるデータを、図面上に貼り付けます。

クリップボードにデータがない場合や互換性のないデータの場合には実行できません。

ヒント!

Simple POP で作成したデータは、コピー元のデータと重なる位置に貼り付けられる場合があります。

削除 **Del**

選択したオブジェクトを削除します。

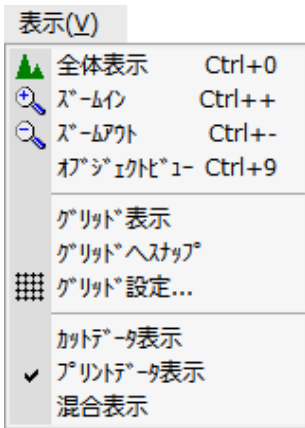
すべて選択 **Ctrl + A**

図面上のオブジェクトをすべて選択します。

ヒント!

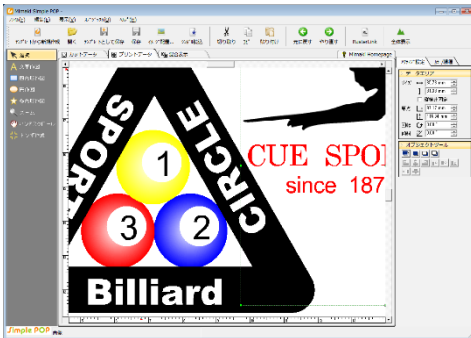
「プリントデータ」タブを選択時は、プリントデータのみが選択されます。
また、「カットデータ」タブを選択時は、カットデータのみが選択されます。

[表示メニュー]

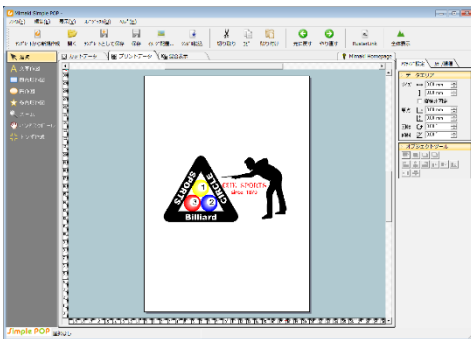


全体表示

ズームインをして図面の一部しか表示されていない場合、またズームアウトで図面を縮小表示されている場合に、このコマンドで図面上にあるデータ全体を表示します。



ズームインで拡大表示している図面




全体表示実行後の図面

ズームイン **Ctrl** + **+**

画面全体をクリックする毎に拡大表示します。

ヒント!

任意の場所を指定してクリックする場合は、ツールボックスの「ズームイン」を選択し、拡大表示する場所を囲ってください。

ズームアウト **Ctrl** + **-**

図面全体を縮小表示します。

全体的な仕上がりを確認しながら編集・作成をする時には、こちらのズームアウト機能で全体的に縮小表示すると効率よく作業をすることができます。

オブジェクトビュー **Ctrl** + **9**

選択したオブジェクトを拡大表示します。

目的のオブジェクトの編集を行う時には、このオブジェクトビューを使用すると選択したオブジェクトを中心に拡大表示され、効率よく編集することができます。

ヒント!

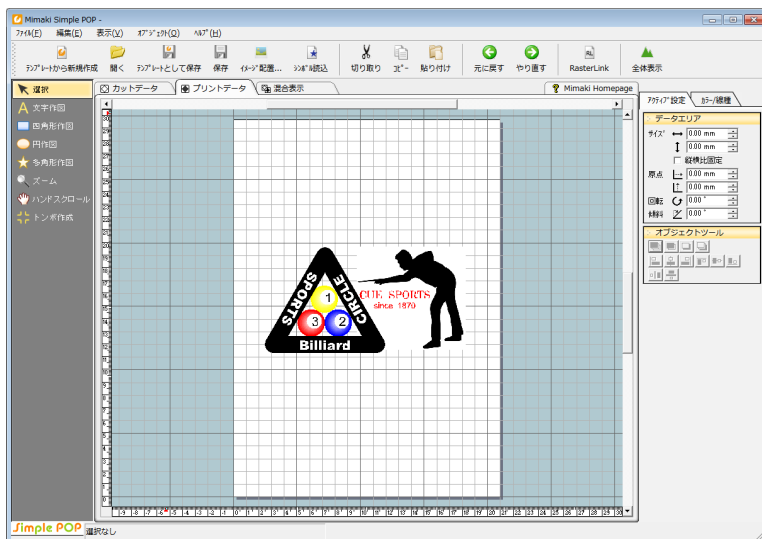
オブジェクトビューでは、選択したオブジェクトを表示画面の一杯まで拡大します。それ以上の拡大をする場合は、「ズームイン」をご使用ください。

グリッド表示

グリッドの表示・非表示の切り替えをおこないます。「グリッドを表示」をONにすると、グリッドが表示されます。

ヒント!

グリッドサイズ・表示の際の形状は、[表示]—[グリッド設定]にて行います。



グリッドヘスナップ

「グリッドヘスナップ」をONにすると、オブジェクトを編集する際、オブジェクトの移動先やコピー先をグリッドに吸い付けて配置することができ、レイアウト作業を容易にします。

ヒント!

グリッドサイズの設定は、[表示]—[グリッド設定]にて行います。

グリッド設定

グリッドの設定を行います。



①グリッドを表示

チェック ON の場合、グリッドを表示します。

②グリッドへスナップ

チェック ON の場合、グリッドへスナップを有効にします。

③オプション

グリッドを表示する際のグリッドの形状、グリッドのサイズ、色を設定します。

カットデータ表示

「カットデータ」タブを表示させた場合と同様です。

(⇒15 ページ)

プリントデータ表示

「プリントデータ」タブを表示させた場合と同様です。

(⇒15 ページ)

混合表示

「混合データ」タブを表示させた場合と同様です。

(⇒15 ページ)

[オブジェクトメニュー]



アレンジ

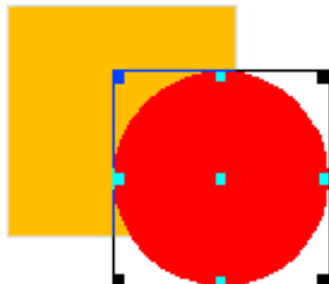
選択したオブジェクトの重ね順を変更します。オブジェクトを選択し、下記のいずれかのアレンジ方法をクリックします。

- 最前面へ
- 前面へ
- 最背面へ
- 背面へ

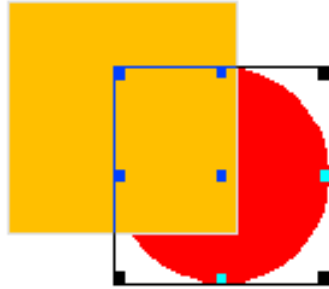
ヒント!

※最前面に移動する場合は手順の2で[最前面へ]をクリックしてください。
※「前面へ」又は「背面へ」を選択すると、1つずつ背面又は前面に移動します。

1 重ね順を変更するオブジェクトを選択します。



- 2 [オブジェクト] - [アレンジ] - [最背面へ] をクリックします。選択したオブジェクトが最背面に移動されます。



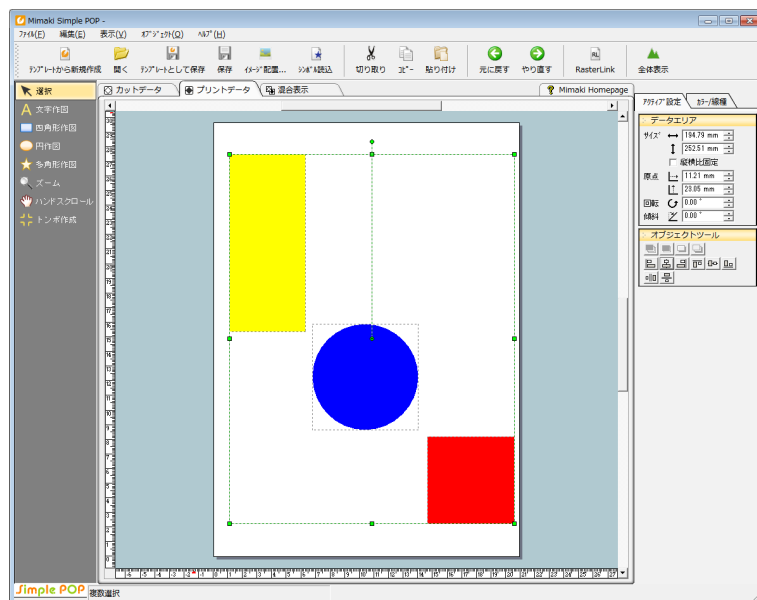
整列

複数のオブジェクトを横軸または縦軸に沿うように揃えて配置します。

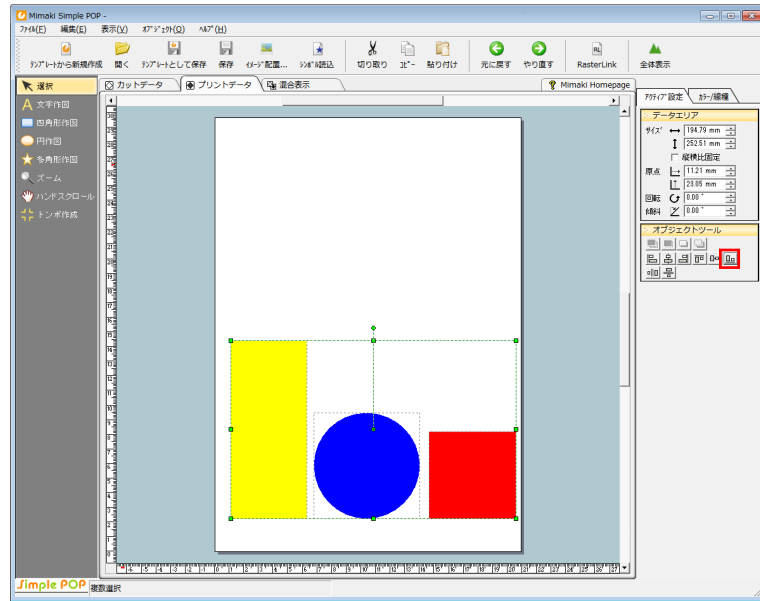
重要!

整列は複数のオブジェクトを選択している場合のみ有効となります。

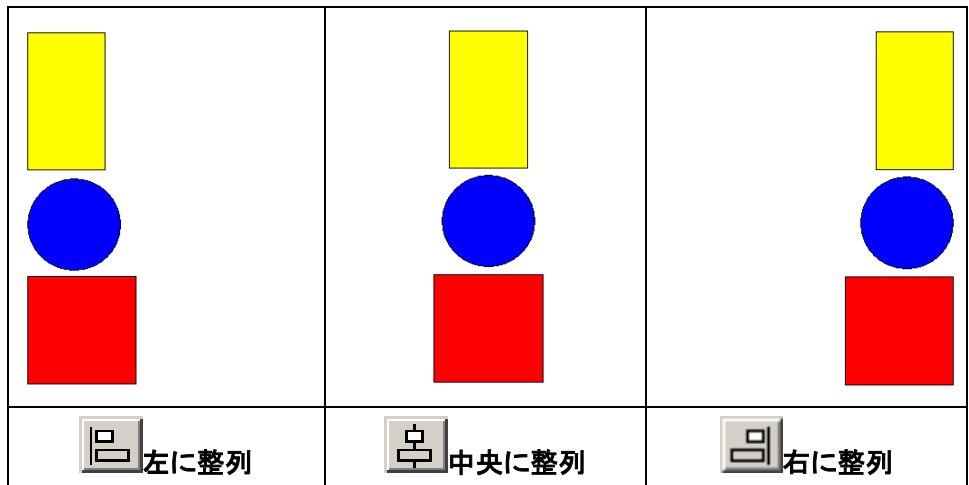
- 1 整列を実行する複数のオブジェクトを選択します。

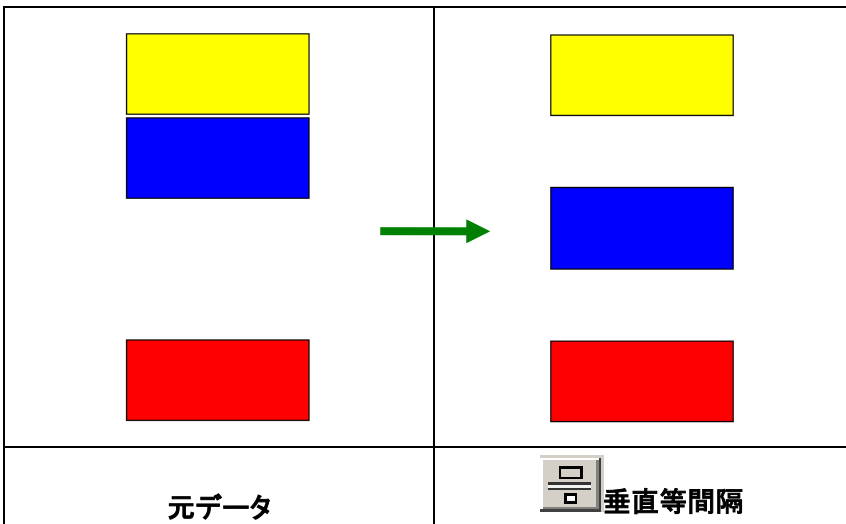
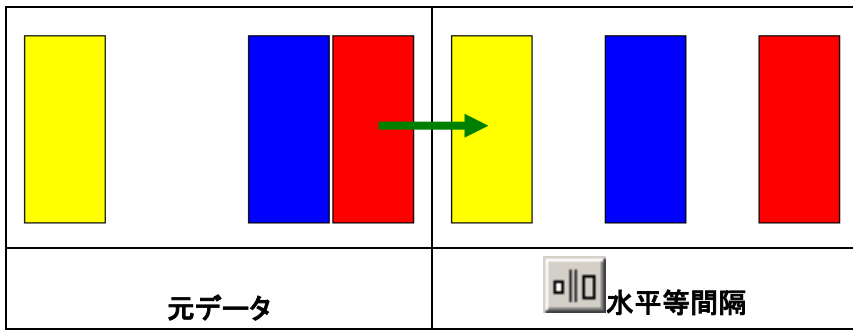
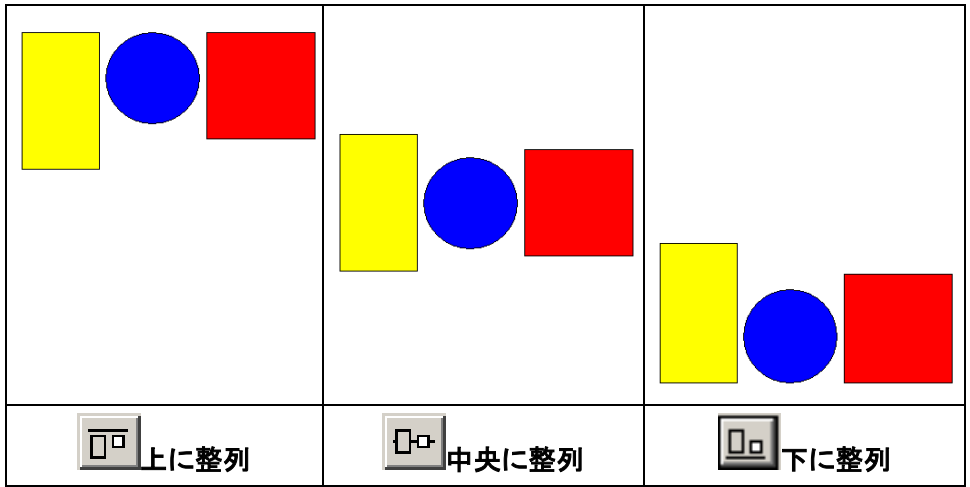


2 整列アイコン をクリックします



整列のサンプル

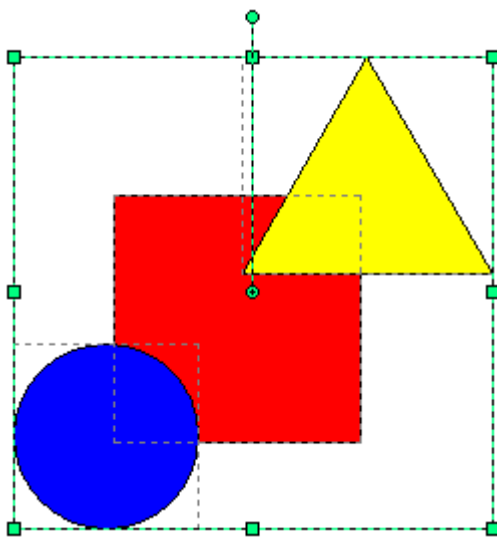




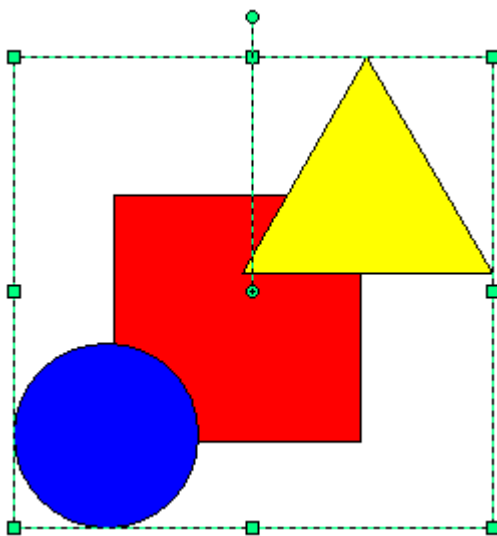
グループ **Ctrl** + **G**

複数のオブジェクトをそれぞれの属性を保持したままでグループ化します。グループ化実行後は、一つのオブジェクトとして編集することができます。

1 グループ化するオブジェクトを全て選択します。



2 [オブジェクト] - [グループ] をクリックします。



グループ解除 **Ctrl** + **Shift** + **G**

グループオブジェクトを解散し、元の複数のオブジェクトに戻します。

- 1 解除するグループオブジェクトを選択します。
- 2 **[オブジェクト]** - **[グループ解除]** をクリックします。

プリントデータに変換

選択したオブジェクトをプリントデータに変換します。変換方法には「コピー」と「移動」がありますので、どちらかの変換方法を選択してください。

カットデータに変換

選択したオブジェクトをカットデータに変換します。変換方法には「コピー」と「移動」がありますので、どちらかの変換方法を選択してください。

一般図形に変換

選択したオブジェクトを一般図形に変換します。

四角形、円、多角形、矢印などのオブジェクトの場合、単一の一般図形に変換します。

文字、グループオブジェクトの場合、グループ化された一般図形に変換します。

ヒント!

オブジェクトを一般図形に変換することで、オブジェクトのポイントを自由に編集することができます。(⇒13 ページ)

グループ化された一般図形は、グループを解除してからポイントの編集をしてください。

複合図形に変換

選択した複数の一般図形、またはグループ化された一般図形を複合図形（複合パス）に変換します。複合図形に変換すると、パスが重なり合った部分が透明に抜けた状態（背景が見える状態）のパスになります。作成される複合図形は、最前面の一般図形の塗りと線の色が適用されます。



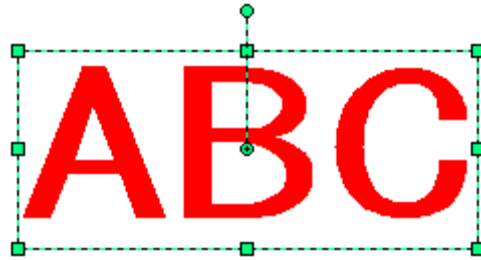
ヒント!

一般図形に変換する前の文字や多角形のパスは、複合図形に変換できません。オブジェクトを一般図形に変換してから複合図形に変換してください。

カス取り線作成

カットしたシールの不要部分をはがしやすくするために、オブジェクト周りにカット線(切り込み)を入れておくと便利です。ここでは、オブジェクト外に入れるカット線を「カス取り線」と呼びます。カス取り線作成では、カット線とフレーム(枠)を作成します。

1 オブジェクトを選択します。



2 [オブジェクト] - [カス取り線作成] をクリックします。

3 カス取り線を設定します。

(1) フリー設定

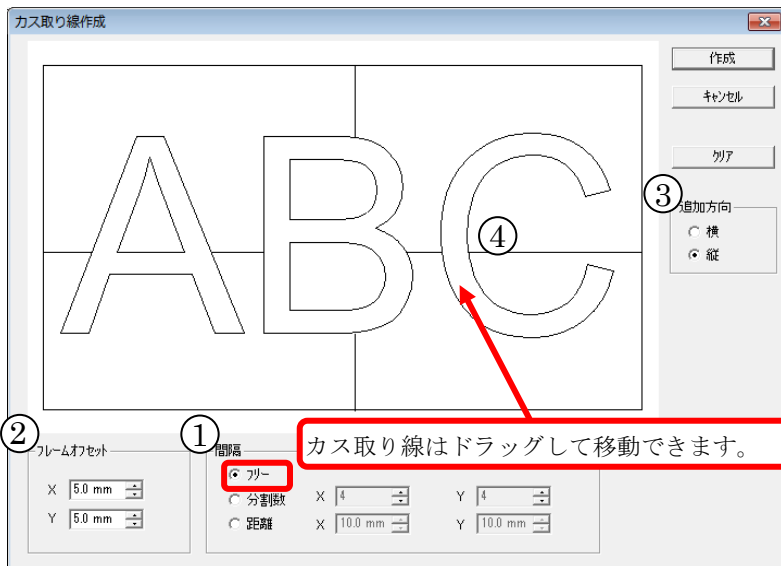
① 「間隔」から「フリー」を選択します。

② 「フレームオフセット」にオブジェクトからフレーム(枠)までの距離を設定します。(下図では、フレームまでの縦方向距離を5mmに設定しています)

※ 「フレームオフセット」を0にしてもカス取り線にすき間ができる場合は、[オブジェクト] - [一般図形に変換]を行うとすき間がなくなります。

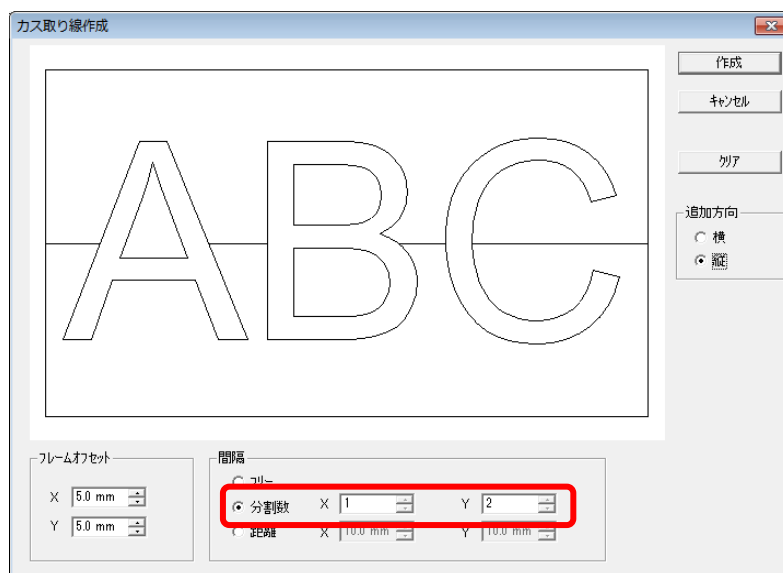
③ 「追加方法」でカス取り線を作成する方向(横または縦)を選択します。

④ カス取り線を作成する位置でクリックします。



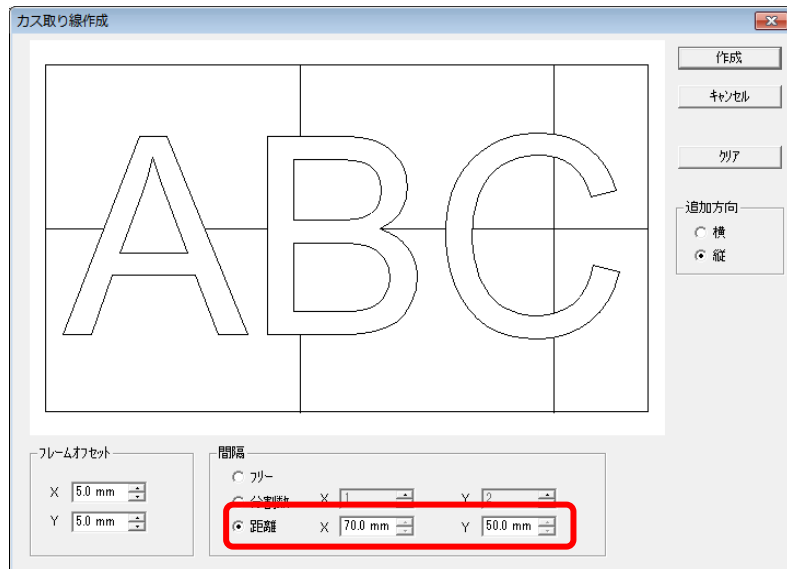
(2) 分割数設定

- ① 「間隔」から「分割数」を設定します。横、縦それぞれに分割する数を選択、または入力します。
- ② 「フレームオフセット」にオブジェクトからフレームまでの距離を設定します。



(3) 距離設定

- ① 「間隔」から「距離」を設定します。
横、縦それぞれのカット線の間隔を選択、または入力します。
- ② 「フレームオフセット」にオブジェクトからフレームまでの距離を設定します。



ヒント!

【キャンセル】をクリックすると、カスタム取り線を作成せずに Simple POP の画面に戻ります。【クリア】をクリックすると、フレーム以外の全てのカスタム取り線を消去します。

ヒント!

カスタム取り線を1本ずつ消去する場合は、「間隔」で「フリー」を選択し、消去する線を画面の端までドラッグします。

4 設定終了後【作成】ボタンをクリックします。

輪郭作成

選択したオブジェクトから輪郭データを作成します。

例えば「プリントするデータの外側 2mm の所でカットしたい」というような場合に、

輪郭作成を行うと、プリントするオブジェクトを元にしてカットデータを作成する事が出来ます。



オフセット量	選択オブジェクトから、作成する輪郭図形までの距離を指定します。	
オフセット	輪郭図形を図形オブジェクトの外側作成するか、内側に作成するかを指定します。	
ジョイント	輪郭図形のカド部分の形状を指定します。	
	マイター	元のオブジェクトと相似な形状で輪郭図形が作成されます。ただし、マイターリミットの値に応じて、カド部分の形状がベベルで処理される場合があります。
	ラウンド	カド部分を丸くした形状で輪郭図形が作成されます。
	ベベル	カド部分を面取りした形状で輪郭図形が作成されます。
マイターリミット	ジョイントをマイターに設定する場合に使用します。 マイターリミットを小さい値にすると、カド部分の形状をベベルで処理するため、先端が飛び出しすぎてしまうことを防ぐことができます。 マイターリミットを大きい値にすると、カド部分の形状をマイターで処理することができます。	

ヒント!

ジョイントをマイターに設定した場合、元のオブジェクトのカド部分の形状とマイターリミットによって、作成される輪郭図形が変化します。

マイターリミットの値を変えながら、成果物をご確認ください。

マイターリミット:5
ベベル処理



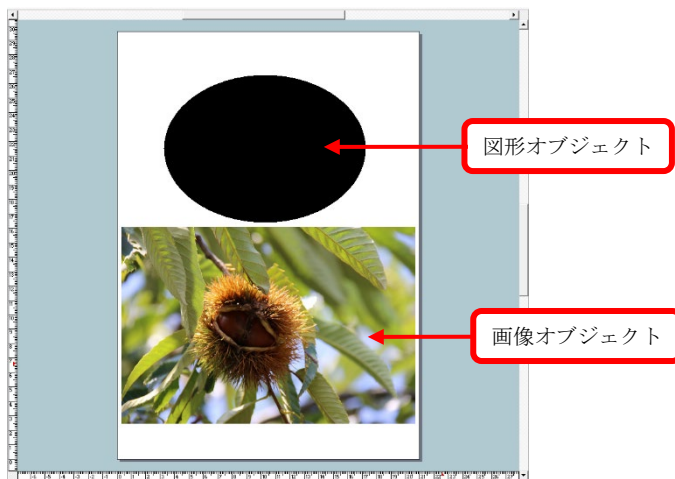
マイターリミット:10
マイター処理



切り抜き

図形などの塗り込みの形に合わせて切り抜いたように、画像オブジェクトを表示できます。

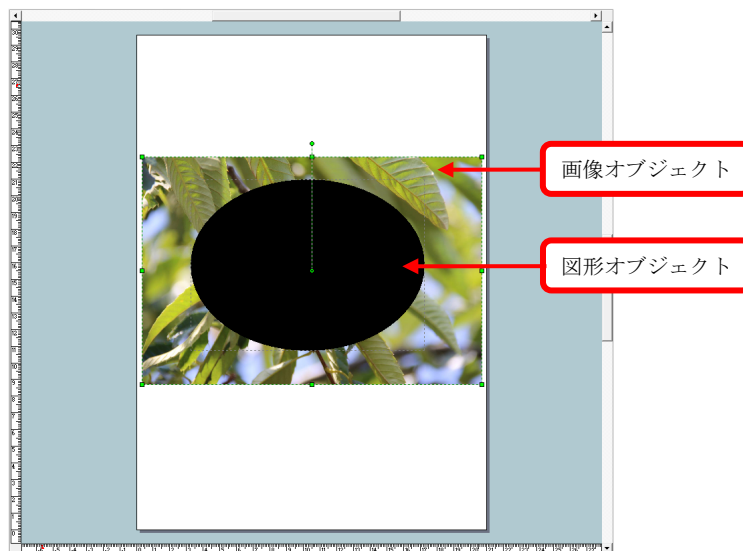
- 1 切り抜きの形を指定する図形オブジェクトと、切り抜き対象となる画像オブジェクトを用意します。



重要!

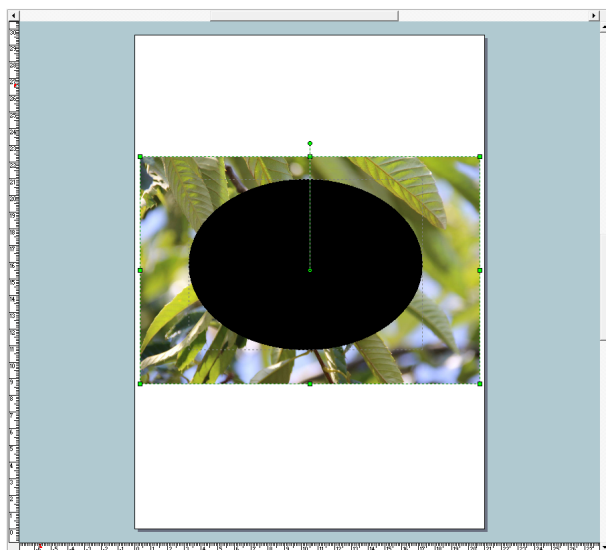
切り抜きの形は画像オブジェクトでは指定できません。

- 2 図形オブジェクトを画像オブジェクトの上に配置します。



3

図形オブジェクトと画像オブジェクトを両方選択します。



ヒント!

Shift キーを押しながら、図形オブジェクトと画像オブジェクトをクリックすると両方のオブジェクトを選択できます。(⇒8 ページ)

4

[オブジェクト] - [切り抜き] - [設定] をクリックすると楕円型で画像オブジェクトを表示します。



切り抜きの解除

- 1 切り抜かれたグループオブジェクトを選択します。
- 2 [オブジェクト] - [切り抜き] - [解除] をクリックすると図形オブジェクトと画像オブジェクトに戻ります。



[ヘルプメニュー]

ヘルプ(H)

バージョン情報(A)...

バージョン情報

お使いの Simple POP のバージョン情報を表示します。サポート電話をご利用の際には、このバージョン情報をあらかじめ調べてからお電話をお願いします。



こんなときには

▶ エラーメッセージの対処方法

エラーメッセージ	表示条件	対処方法
印刷可能サイズを取得できないため、出力できません。 プリンタもしくは RasterLink の設定を確認してください。	プリンタが起動していない場合	プリンタの電源を入れて、起動してください。
	RasterLink が起動していない場合	RasterLink を起動してください。 起動手順 →RasterLink インストールガイド参照
	プリンタのメディアがセットされていない場合	プリンタにメディアをセットしてください。
	プリンタのメディア幅が 209mm 以下の場合	メディア幅が 210mm 以上のメディアをセットしてください。
	個別トンボを作成する設定が RasterLink のお気に入りに保存されている場合	RasterLink のお気に入りに個別トンボを作成する設定を適用しないでください。 個別トンボは Simple POP で作成してください。

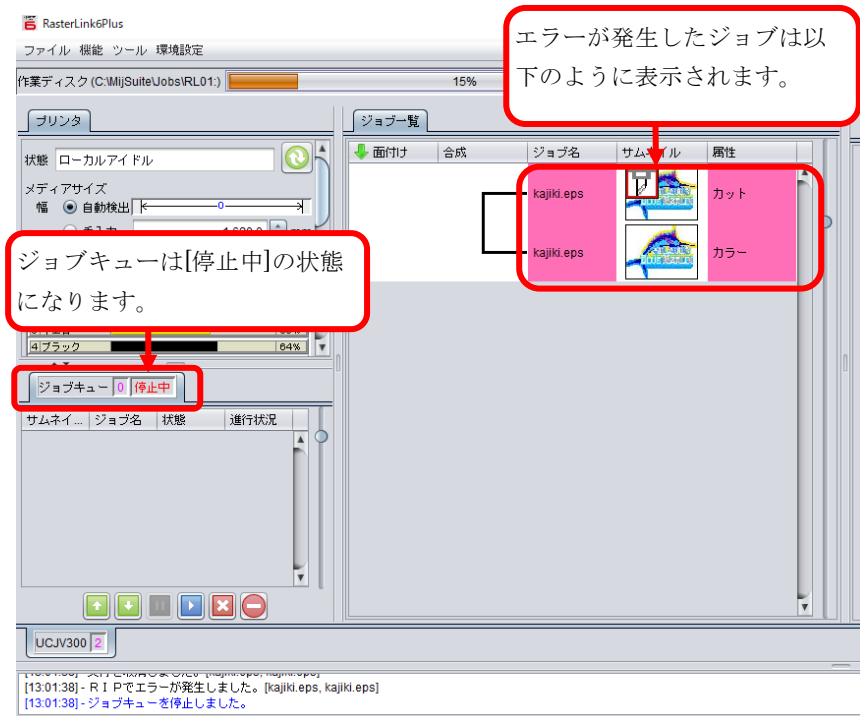
警告メッセージの対処方法

警告メッセージ	表示条件	対処方法
印刷可能サイズを取得できません。 RasterLink シリーズのアプリケーションで設定を調整してください。	RasterLink の自動実行が停止になっている場合	Simple POP のセットアップガイドに従って、セットアップを実施してください。
	RasterLink の自動実行は開始されているが、自動実行設定オプション「定期的にメディア情報を取得する」が無効になっている場合	※RasterLink で自動実行しない場合、セットアップは不要です。操作を継続してください。「今後、このダイアログボックスを表示しない」にチェックを入れると、次回以降メッセージは表示されなくなります。
データが印刷可能サイズの外にあります。サイズ内に収まるように設定してください。	RasterLink 出力画面で印刷可能サイズを超える設定が適用されている場合	印刷可能サイズ内に収まるように、設定を再調整してください。
トンボを作成できないデータサイズです。 データの短辺サイズを 50mm 以上に設定してください。	データ短辺のサイズが 50mm 未満の場合	プリンタでトンボを作成できる最小サイズは 50mm です。サイズは 50mm 以上に設定してください。

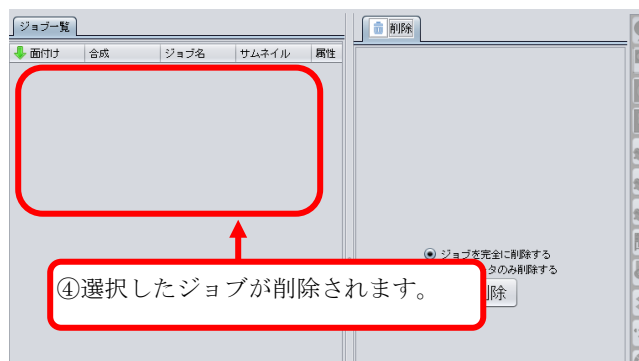
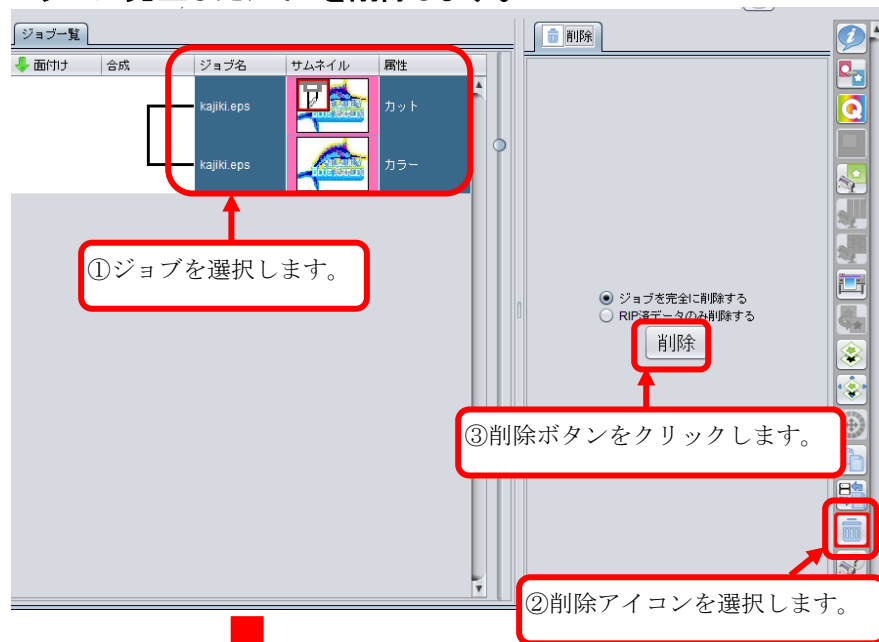
RasterLink にエラーが発生した場合

RasterLink の自動実行を開始している状態でエラーが発生した場合、ジョブキューが停止するため印刷できなくなります。以下の手順で RasterLink を操作し、自動実行を再開してください。

1 RasterLink の画面を開き、エラーを確認します。



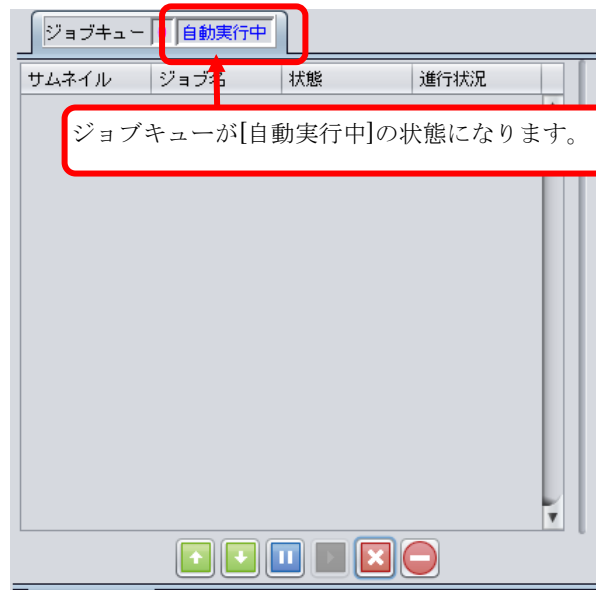
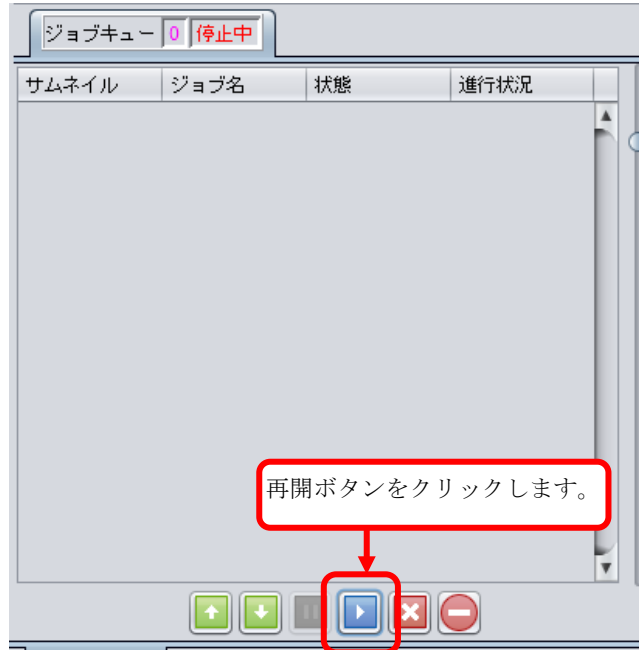
2 エラーが発生したジョブを削除します。



重要！

合成されているジョブは全て選択して削除してください。
一部のみ選択した場合は削除されません。

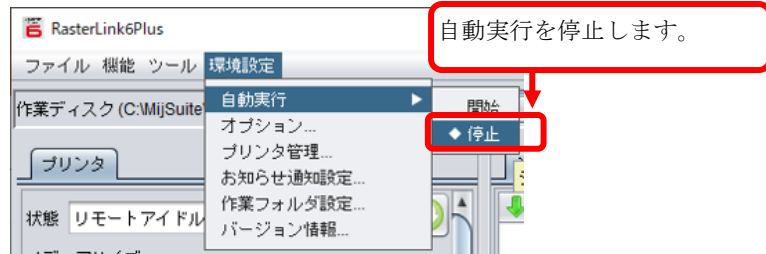
3 ジョブキューを再開します。



全体トンボを付加して印刷したい

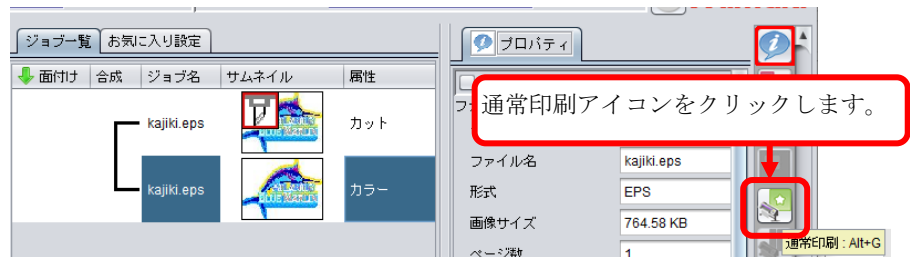
全体トンボを付加して自動実行で印刷したい場合、RasterLink を再セットアップする必要があります。以下の手順で実施してください。

1 自動実行を停止します。



2 全体トンボを付加するホットフォルダを作成します。

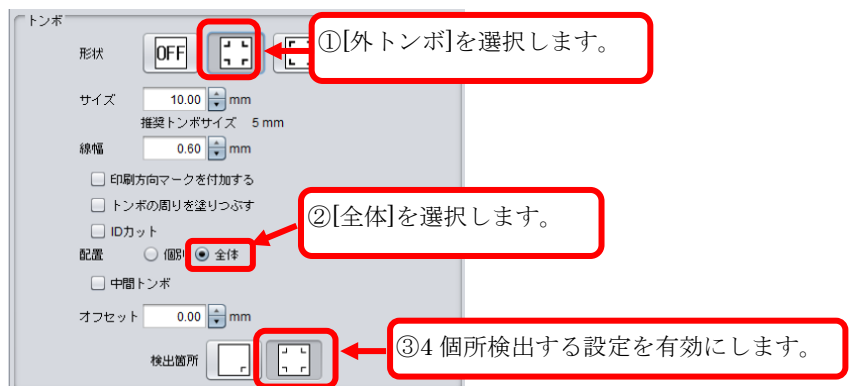
(1) プロパティ画面で通常印刷アイコンをクリックします。



重要!

通常印刷アイコンはジョブを選択している状態でクリック可能です。ジョブが存在しない場合は読み込みを行ってください。ジョブの読み込み方法は RasterLink のリファレンスガイドを参照してください。

(2) 全体トンボをジョブに付加します。



重要!

個別トンボは適用できないため、選択しないでください。

(3) 全体トンボを付加するお気に入りを作成します。

①[お気に入り設定]タブを選択します。

②全体トンボを付加する任意のお気に入り名を入力します。

UCJV300-Whole

③追加ボタンをクリックします。

⑤全体トンボを付加するお気に入り設定を保存します。

④お気に入りが追加されます。

(4) 全体トンボを付加するホットフォルダを作成します。

②ホットフォルダ作成ボタンをクリックします。

①全体トンボを付加するお気に入りを選択します。

ホットフォルダ

フォルダパス

共有フォルダ名

プリンタ名

共有プリンタ名

ポート名

作成 削除

閉じる

③[作成]ボタンをクリックします。

ホットフォルダ

フォルダパス
C:\MijSuite\HotUCJV300-Whole

共有フォルダ名
UCJV300-Whole

プリンタ名
UCJV300-Whole

共有プリンタ名
SUCJV300-Whole

ポート名
MIJ_M

作成

[15:55:35] - ホットフォルダを作成しました。[UCJV300-Whole]

閉じる

④ホットフォルダが作成されます。

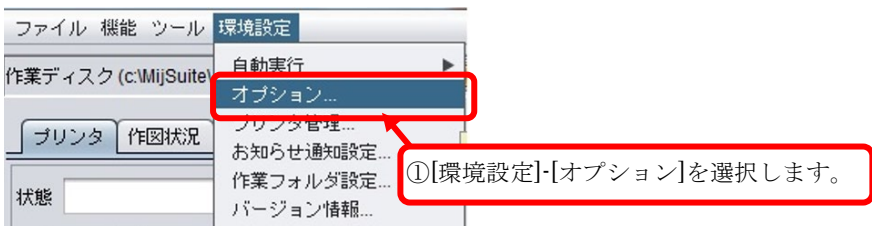
⑤[閉じる]ボタンをクリックします。

重要!

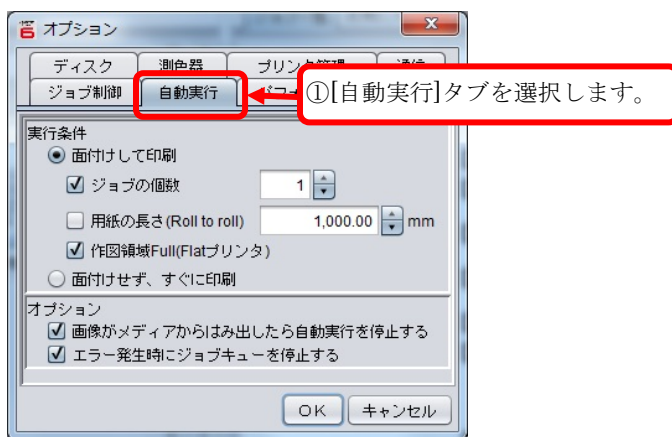
ホットフォルダ作成後、読み込んだジョブは削除してください。

3 自動実行条件を設定します。

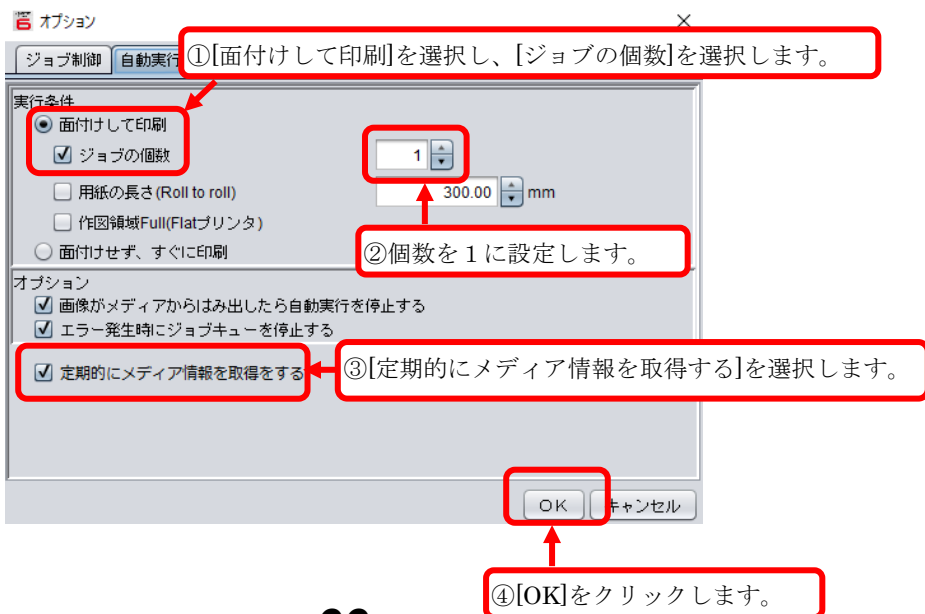
(1) オプション画面を表示します。



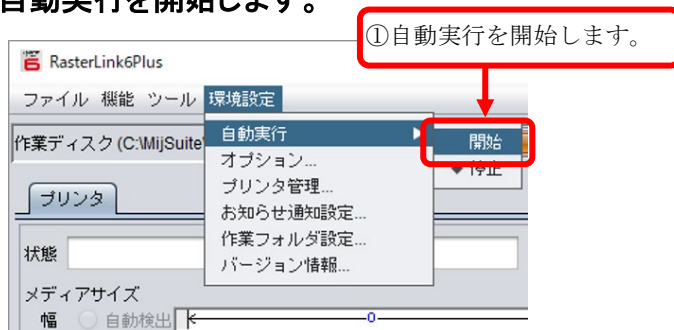
(2) オプション画面の[自動実行]タブを選択します。



(3) 自動実行条件を設定します。



4 自動実行を開始します。



以上で、RasterLink のセットアップは完了です。

Simple POP でデザインしたデータを RasterLink 出力する時に、全体トンボを付加するホットフォルダを選択してください。

重要！

自動実行設定のジョブの個数は、Simple POP から RasterLink 出力されたデータの個数を表します。Simple POP の RasterLink 出力画面で設定できるコピー数とは関係ありません。

例：

Simple POP の RasterLink 出力画面でコピー数を 3 に設定したデータを 1 回出力した場合、ジョブの個数は 1 となります。

重要！

手順 4 で、自動実行を[開始]に設定せずに Simple POP から RasterLink 出力すると、ジョブに付加される全体トンボの一部が印刷されません。

その場合、RasterLink でプレビューを確認しながら、[移動]の[幅]と[送り]の値を、[トンボ]の[サイズ]と同じ値に設定してください。

▶ 面付けして印刷したい

面付けは複数の画像をまとめて印刷できる機能です。

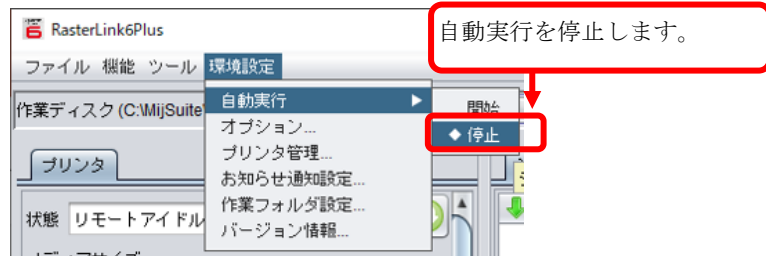
面付けして印刷したい場合、RasterLink の再セットアップが必要です。

RasterLink を自動実行させて面付けしたい場合は以下のセットアップを実施してください。

自動実行せずに、手動で面付けしたい場合は「RasterLink で設定を調整したい」の手順を実施してください。

RasterLink を自動実行させて、面付けしたい場合のセットアップ手順を以下に示します。

1 自動実行を停止します。

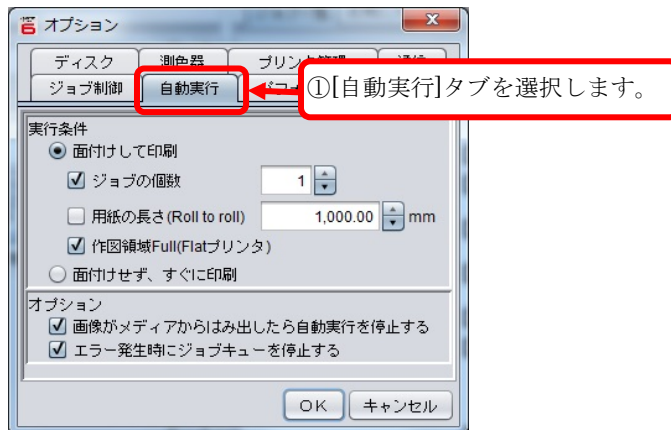


2 自動実行条件を設定します。

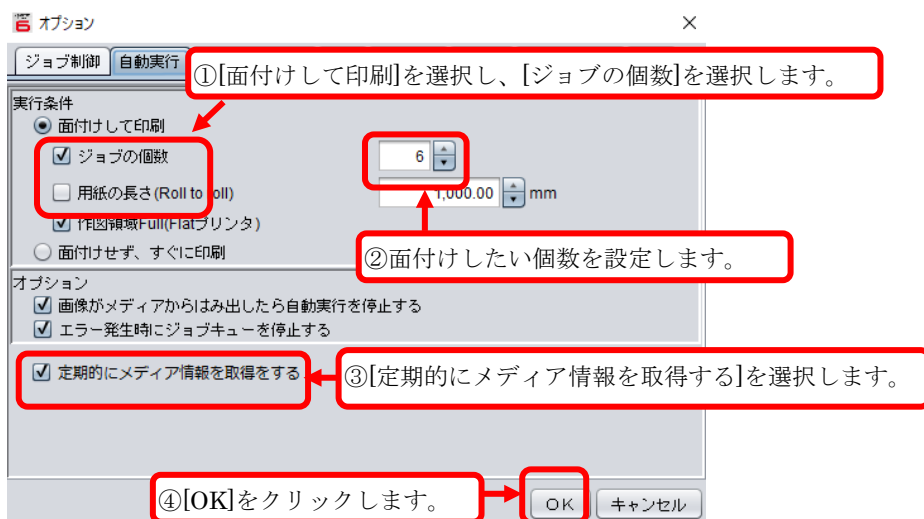
(1) オプション画面を表示します。



(2) オプション画面の[自動実行]タブを選択します。



(3) 自動実行条件を設定します。



①[面付けして印刷]を選択し、[ジョブの個数]を選択します。

②面付けしたい個数を設定します。

③[定期的にメディア情報を取得する]を選択します。

④[OK]をクリックします。

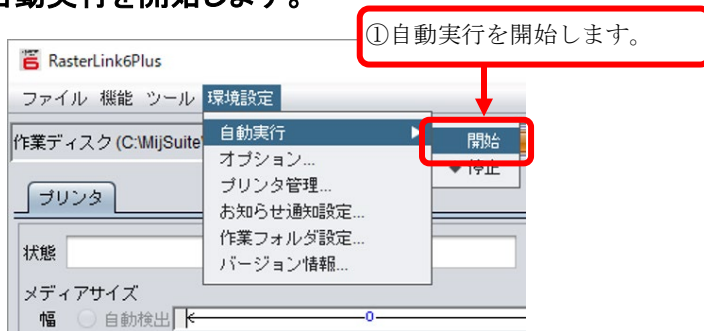
重要!

自動実行設定のジョブの個数は、Simple POP から RasterLink 出力されたデータの個数を表します。

Simple POP の RasterLink 出力画面で設定できるコピー数とは関係ありません。

例：Simple POP の RasterLink 出力画面でコピー数を 5 に設定したデータを 2 回出力した場合、ジョブの個数は 2 となります。

3 自動実行を開始します。



①自動実行を開始します。

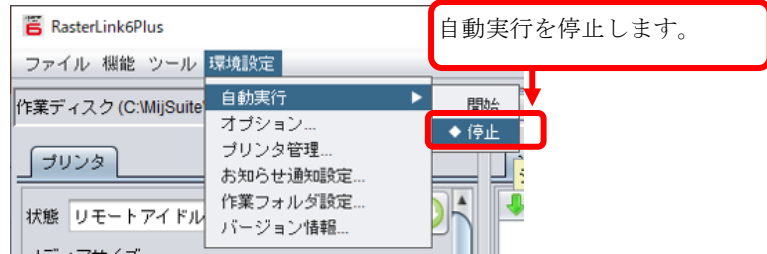
以上で RasterLink のセットアップは完了です。

面付けしたい個数を変更したい場合は、上記手順と同様にセットアップを実施してください。

▶ RasterLink で設定を調整したい

RasterLink で設定を調整したい場合、自動実行を停止する必要があります。
以下に自動実行の停止手順を示します。

1 自動実行を停止します。



重要!

自動実行停止後、Simple POP と RasterLink を再起動してください。

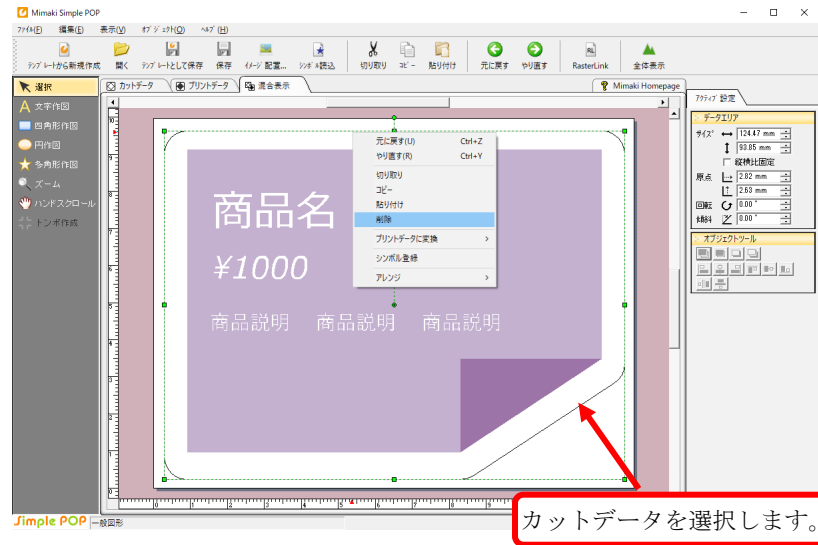
以上で、RasterLink の自動実行は停止します。

Simple POP でデザインしたデータを RasterLink 出力すると、RasterLink のジョブ一覧に表示されます。設定の調整方法は RasterLink のリファレンスガイドを参照してください。

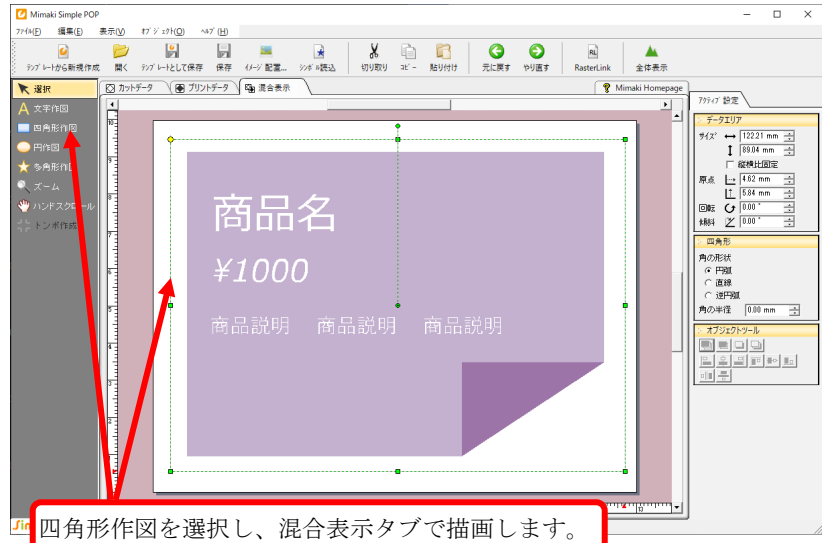
▶ カットデータを作成したい

混合表示タブ、又はカットデータタブで作成したオブジェクトは、カットデータとして作成されます。ここでは、テンプレートのカットデータを削除して、新規のカットデータを作成する手順を説明します。

- 1 任意のテンプレートを選択し、混合表示画面を表示します。
- 2 カットデータを選択してし、右クリックし、【削除】を選択します。

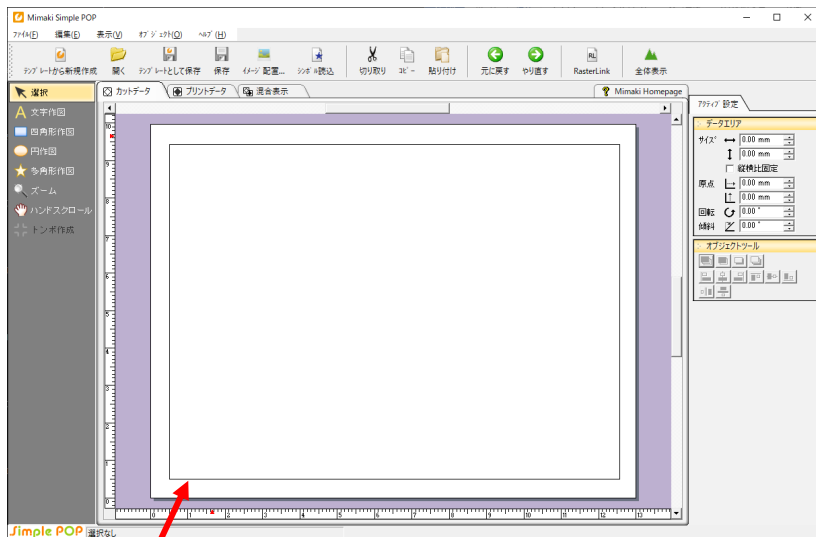


- 3 ツールボックスから任意のツールを選択して、オブジェクトを描画します(ここでは四角形作図を選択します)。



4

カットデータタブを表示して、カットデータとして作成されていることを確認します。



四角形作図がカットデータとして表示されます。

▶ 白文字をホワイトインクで印刷したい

白文字をホワイトインクで印刷したい場合、RasterLink で有効画素へホワイトインクを印刷するお気に入りを設定して、Simple POP でカラー値を変更します。

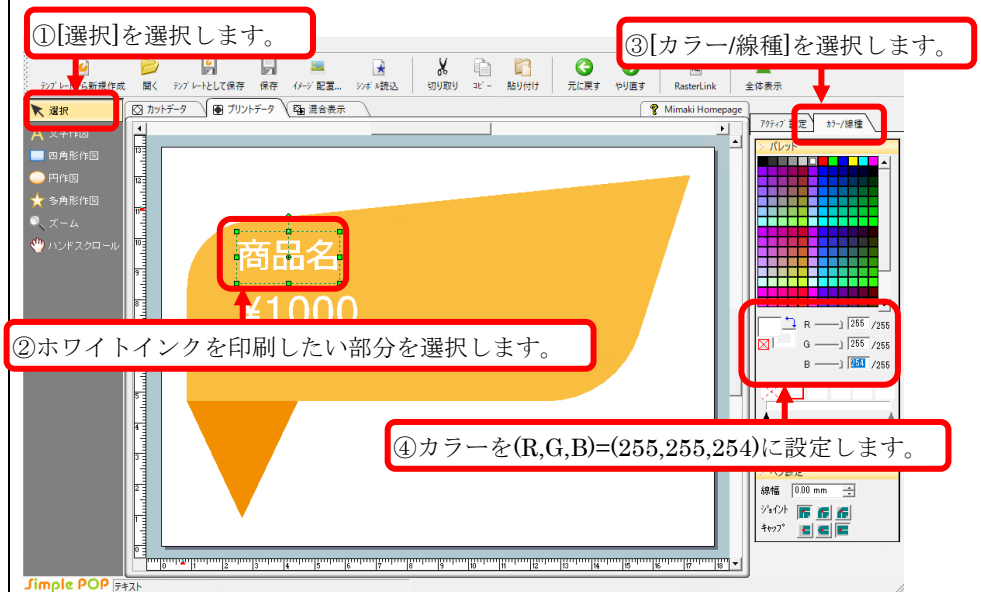
RasterLink の設定手順および Simple POP の操作方法を説明します。

1 RasterLink でお気に入り設定を作成します。

有効画素へホワイトインクを印刷するお気に入り設定の操作手順は別冊「セットアップガイド」の 3-(4)お気に入り作成に記載されています。セットアップガイドをお読みいただきお気に入り設定を作成してください。

2 Simple POP で任意のテンプレートを開き、プリントデータタブを表示します。

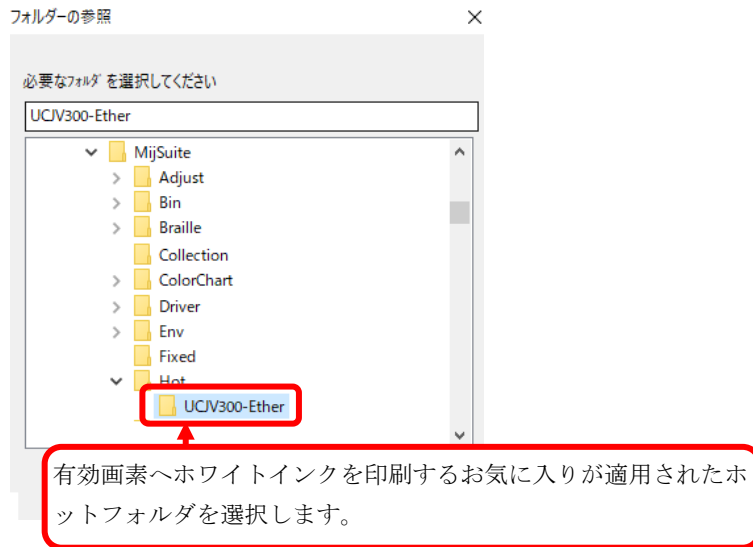
3 ホワイトインクを印刷したい部分へカラー値を設定します。




重要!

上記のカラーを設定すると、RasterLink の出力設定によってはごく薄いカラーが白文字部分に印刷されます。ご使用の出力設定でテストプリントを行い、印刷結果を確認いただいた後、本手順を実施してください。

4 データ出力時、1.で作成したお気に入り設定が適用されたホットフォルダを選択します。



ホットフォルダ選択後、RasterLink 出力画面で出力設定を行い、出力ボタンをクリックしてください。RasterLink でデータが出力され、有効画素の部分へホワイトインクが印刷されます。



this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

Copyright (c) 1988-1997 Sam Leffler

Copyright (c) 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

Permission to use, copy, modify, distribute, and sell this software and its documentation for any purpose is hereby granted without fee, provided that (i) the above copyright notices and this permission notice appear in all copies of the software and related documentation, and (ii) the names of Sam Leffler and Silicon Graphics may not be used in any advertising or publicity relating to the software without the specific, prior written permission of Sam Leffler and Silicon Graphics.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS-IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS, IMPLIED OR OTHERWISE, INCLUDING WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTY OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT SHALL SAM LEFFLER OR SILICON GRAPHICS BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY KIND, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER OR NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF DAMAGE, AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

This is version 2009-Jan-02 of the Info-ZIP license. The definitive version of this document should be available at <ftp://ftp.info-zip.org/pub/infozip/license.html> indefinitely and a copy at <http://www.info-zip.org/pub/infozip/license.html>. Copyright (c) 1990-2009 Info-ZIP. All rights reserved.

For the purposes of this copyright and license, "Info-ZIP" is defined as the following set of individuals:

Mark Adler, John Bush, Karl Davis, Harald Denker, Jean-Michel Dubois, Jean-loup Gailly, Hunter Goatley, Ed Gordon, Ian Gorman, Chris Herborth, Dirk Haase, Greg Hartwig, Robert Heath, Jonathan Hudson, Paul Kienitz, David Kirschbaum, Johnny Lee, Onno van der Linden, Igor Mandrichenko, Steve P. Miller, Sergio Monesi, Keith Owens, George Petrov, Greg Roelofs, Kai Uwe Rommel, Steve Salisbury, Dave Smith, Steven M. Schweda, Christian Spieler, Cosmin Truta, Antoine Verheijen, Paul von Behren, Rich Wales, Mike White.

This software is provided "as is," without warranty of any kind, express or implied. In no event shall Info-ZIP or its contributors be held liable for any direct, indirect, incidental, special or consequential damages arising out of the use of or inability to use this software.

Copyright (C) 1995-2017 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software. Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly

Mark Adler

jloup@gzip.org

madler@alumni.caltech.edu

